

水 稲



昭和45年から始まった減反政策は、年毎に厳しさを増し、昭和59～61年においては、米価据置き、62年度から水田農業確立対策により転作面積の拡大と転作補助金の大巾な減額に加えて、31年ぶりの米価引下げによって、高齢化、婦女子化する現状の中にあつて、農業に対する不安は、はかりしれないものがある。



牛 耕 S35当時



もみまき



苗とり S40頃



田 植 S42



稲刈り S42頃



粳すり機 S42



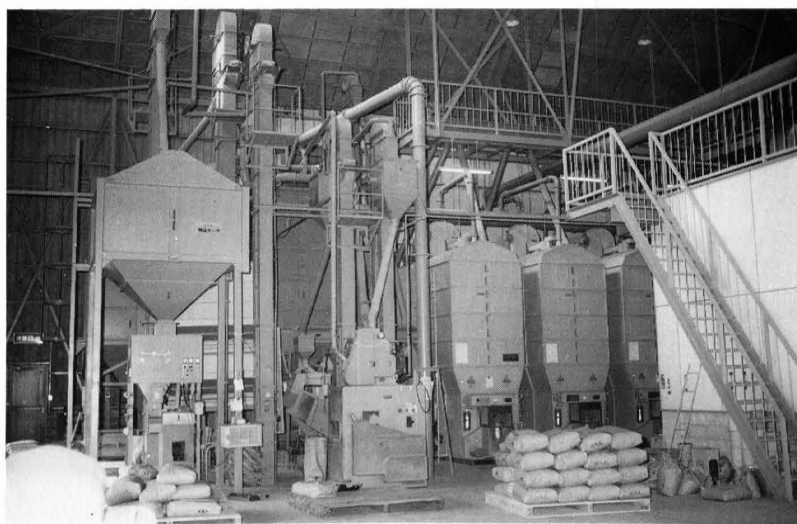
バインダー S43



コンバイン試運転 S46～



精米所



久万ライスセンター S52設置
(明神 S43設置・直瀬 S48設置)

10月は「米消費拡大推進強調月間」



51年度から米消費拡大運動始まる。



日本型食生活の普及 59年度林業まつり会場

おコメの1人1年当たりの消費量は、37年度の118kgをピークとして減少し、45年度は、は97kg、現在は72kgと約6割の消費となってきた。

高原野菜の振興

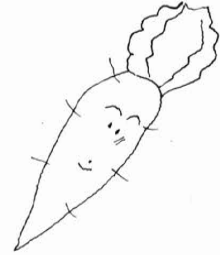
大 根

気象・立地条件を加味して、準高冷地における夏秋野菜を振興している。トマト・昭和53年、キャベツ・昭和57年、大根・昭和61年に国の指定産地となっている。

今後においても、地域の特性を生かし高齢者や婦人にみあった作目の振興も考えて、前進しなければならない。



農用地造成
11.3 ha (作付 9.0 ha)
昭和59～64年度事業
直瀬西山団地



消費者が好む
低農薬栽培

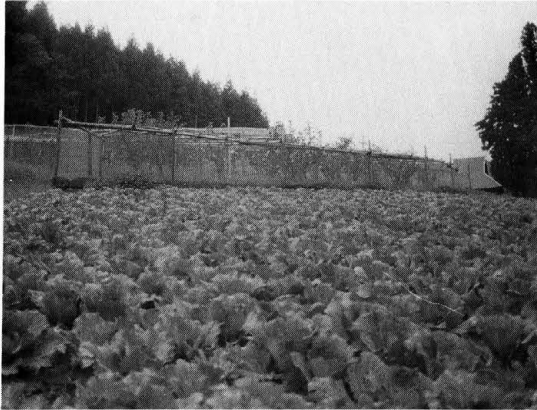


洗果

大根は畑野川地区を中心に昭和36年頃に栽培が始まり「みの早生大根」を主体に作付されてきたが、近年の消費動向から高品質重視の「青首大根」栽培となっている。主に四国市場を中心として出荷されているが、連作障害等の諸問題がでてきている。

昭和62年度 生産戸数79戸 栽培面積35ha

キャベツ



夏秋キャベツ

キャベツの栽培は、昭和30年頃より始まり当地の代表的な野菜として県内、高知市場を中心に出荷され一時栽培面積が減少した時期もあったが、地域の特産野菜づくりと水田高度利用から面積拡大が図られ7月から10月出荷の夏秋キャベツ産地となっている。

S .62年度生産農家戸数186戸 栽培面積25 ha

ピーマン

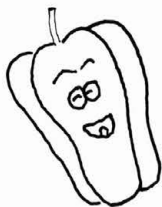
ピーマン栽培については、昭和51年頃から市場販売が始まったが、高齢化が進展する中で、軽量作目の動入が必要となってきた。

昭和61年度に山振事業でピーマン選果機を導入したことにより、生産量は倍増し、1億円生産作目となった。

112戸の農家 = 4.8ha



婦人による収穫



久万町農業の顔 トマト



昭和45年の米の生産調整を契機に、農協が中心になって、水田利用のトマト栽培を推奨し、計画的生産と流通対策を講じ、高原特産物としての銘柄を築いてきた。46年1月トマト部会発足。

昭和53年6月26日、国の野菜指定産地に指定され、58年から全面雨除けハウスとなり、良質なトマトが生産され阪神市場では②完熟トマトで好評を得ている。

62年度実績 19.5ha = 1,882t = 540,718千円 (栽培農家115戸)



S46～S57 露地栽培



ハウス団地



S58～ 全面雨除けハウス栽培



試験、研究 (久万農試、普及所)



トマト選果場
 (56年度 新設) 1,135.09㎡
 (61年度 増設)



予冷施設
 (62年度 新設) 324.35㎡



久万農協 5 億円突破記念大会 昭和59年度

久万町において、60年度にトマト販売額が566,763千円となり、米の482,337千円を抜き、名実とも西日本一の産地となった。



チェリートマト

24戸の農家により1.5 ha栽培

養 蚕



久万の養蚕の歴史は古く、明治20年ごろに導入されているが、新しい蚕業指導体系による養蚕が取り入れられたのは昭和38年である。各地域の段畑を中心として桑園づくりは活発となり、昭和45年には90ha、養蚕農家も225戸と増加してきた。しかし生糸は国外からの輸入により繭価の変動が激しく、また、飼育農家の高齢化も伴ない生産意欲が薄れてきている。

久万町においては、57年度に8カ町村共同の稚蚕飼育所を設置し近代化を図るとともに優良繭の安定的な生産をめざして努力を重ねているが、62年度においては糸価の大幅な引き下げがなされるなど厳しい状況下にある。62年28ha、養蚕農家32戸となっている。



桑のつみとり



飼育 S39



飼育 S45

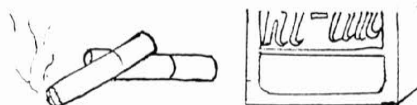


桑団地整備



昭和57年度 中予稚蚕共同飼育所

たばこ



たばこは、昭和27年から栽培され、専売品であったため栽培農家も慎重を期し、その取扱いについては厳重な指導が進められた。35年当時は21ha・68tで、45年67ha・139tと増加したが、55年には48ha・99tと大幅に減少してきた。

近年の消費傾向としてニコチンタール含量の少ないものが好まれ、愛煙家数も減少してきている。62年30ha・78t、61年に専売から日本たばこ産業(株)への移行により消費者ニーズにあった、量から質への移行がなされて厳しい生産調整がなされている。



たばこ団地

昭和53年3月には、直瀬団地たばこ生産組合が「朝日農業賞」を受賞した。



選別



共同乾燥施設 S62

茶



茶園展示園



霜よけ施設



機械によるつみとり



製茶工場



製品

栗



くりは、父二峰地区を中心として昭和43年ごろより広まった。45年のピーク時には60haの増反とめざましいものがあり、県協議会で連続1位を3回受賞するなど傾斜地をうまく利用し、県内においても先導的役割を果たしていた。しかし更新手遅れや、他国からの輸入による値くずれ、国道380号線拡張工事等によって優良地が少なくなってきた。

62年度 29.4t 8,764千円 147戸 40ha



成 木



観光農業のくりひろい

みつまた

三 極

三極(ミツマタ)は、紙の原料として栽培されてきた。上浮穴地方では、明治20年頃から傾斜畑でも栽培でき、加工は冬場の農閑期作業で、しかも換金作目としても有利なことから盛んとなった。三極は、楮にくらべて繊維は短いが、繊細で、ねばりが強く光沢があり、独特の製紙、紙幣原料である。

戦後、スギ・ヒノキの人工造林熱の高まりによって、三極畑はなくなり、昭和40年頃には三極むしの光景はほとんど姿を消した。



成 育 状 況

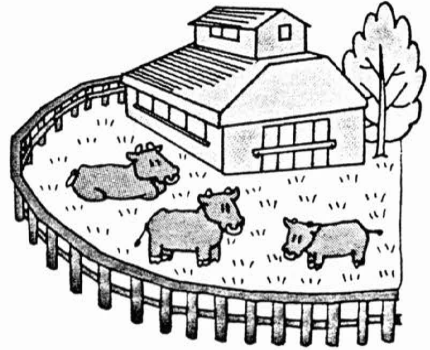


梱 包

畜産

牛や馬が、農耕や運搬の労働力としての役目をおえてから久しい。牛馬が村から姿を消したのは昭和40年代半ばである。

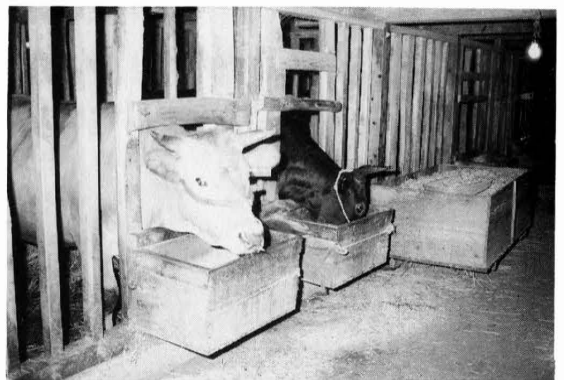
牛がいないと駄屋が淋しいと感じていた農家も残り少なくなった。62年肉用牛飼育農家42戸1,110頭（内、経済連1,050頭）馬、豚0となっている。現在、高齢者・婦人グループによる肉用牛の振興を図っている。



婦人グループ勉強会



現在の野尻市



肉用牛飼育農家（落合）

肉用牛センターの概要 47.5 ha



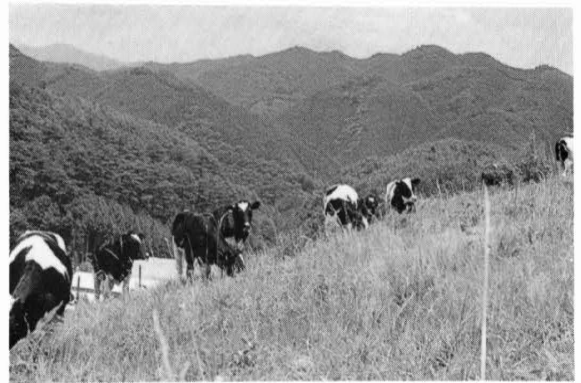
昭和59、60年度
経済連
肉用牛センター全景
7億 1,300万円

肉用牛生産
振興の拠点

久万町大字直瀬字西山乙1,403-1



育成会

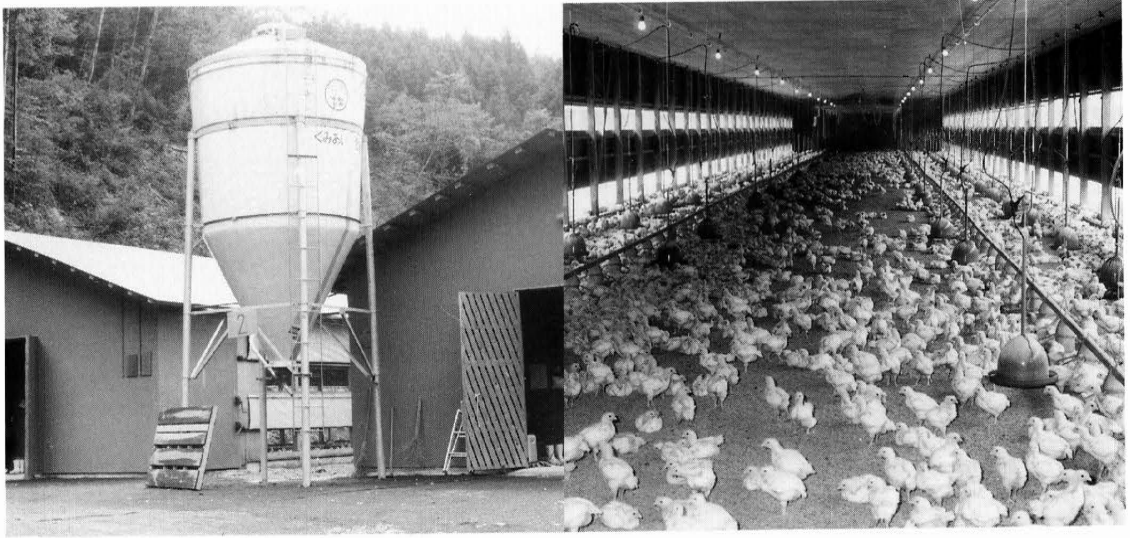


放 牧



トラクター収穫

養 鶏 (ブロイラー)



昭和 63 年 (上直瀬)

養 魚



あめ、ますの養殖

農産加工

恵まれた自然条件の中で栽培から加工まで24名の農家婦人により一貫した手づくり体制でのごんである。



57年度 農産物加工場
「久万山漬」 157.75㎡



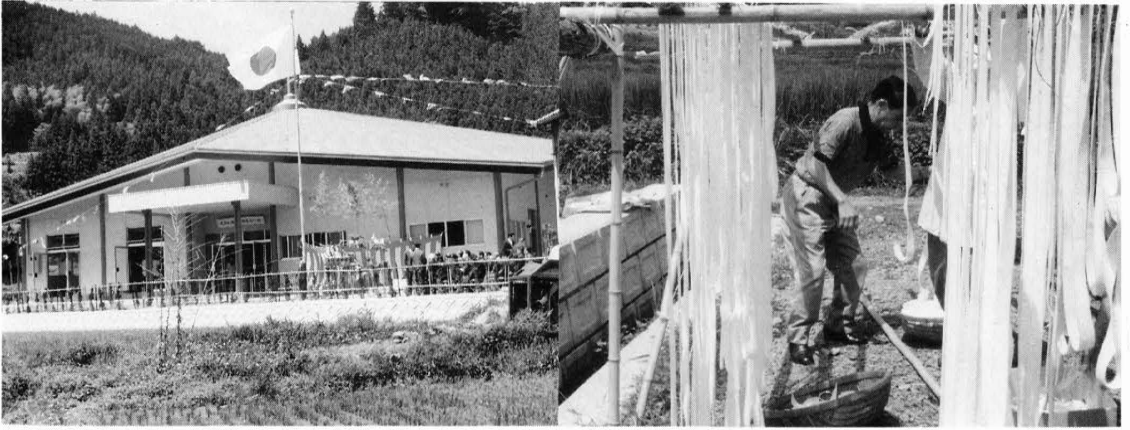
漬物包装



62年度 宮森生活館 136.86㎡



豆腐、こんにゃくづくり



昭和52年 久万町農家高齢者創作館落成

共同作業 かんびょうづくり



昭和61年
10周年記念
芸能発表



町内のしめかざりは一手にひきうけます。

環境施設整備事業



上田集会所 改修前



昭和62年度 新築 71.72m



昭和58、59年度
直瀬住民センター 1,008.25㎡

昭和51年度 第二次農業構造改善事業

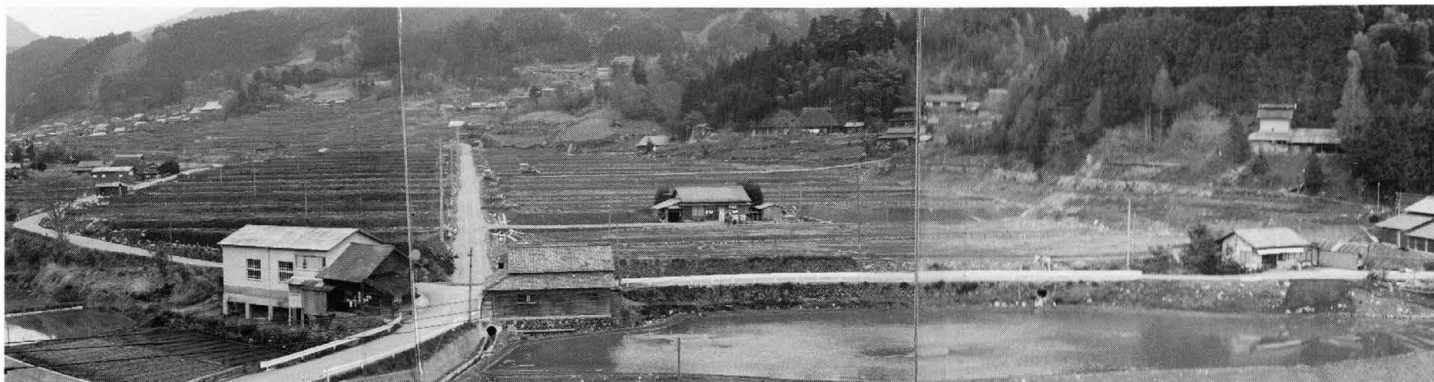
岩川地区

整備前



昭和40年から各種補助事業で積極的に水田の区画整理に取り組み、今日では、549haの水田の内72%にあたる397.7haが完了した。

整備後



現在、整備された圃場においては、大型機械が導入され、稲作は大幅に省力化され、余剰労力によって、高原野菜の栽培へと移行してきた。

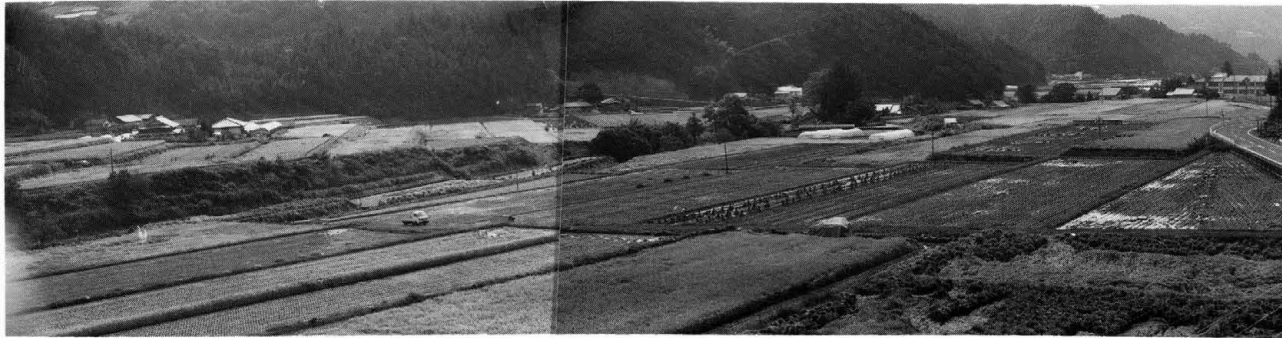
土地基盤整備事業

西ノ浦地区

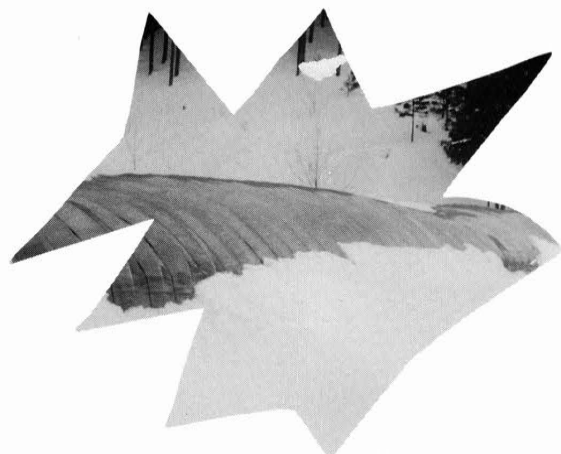
整備前



整備後



農業気象、鳥獣被害



ハウス

雪害



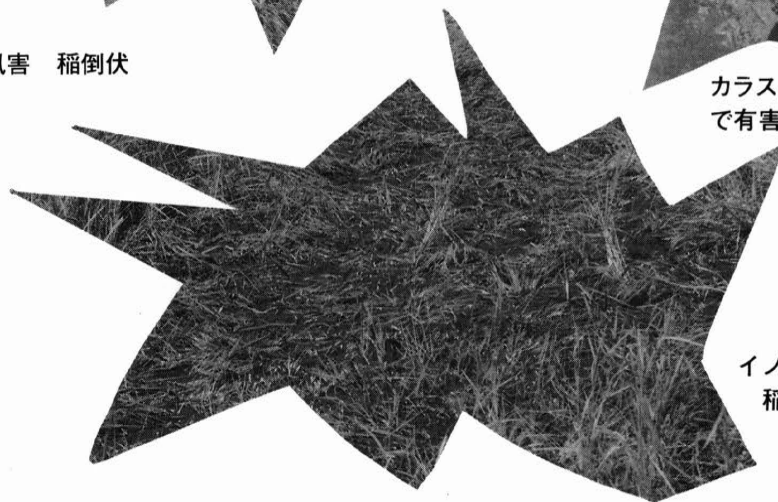
茶 霜害



風害 稲倒伏



カラスによる苗代被害
で有害駆除



イノシシ害
稲倒伏

集落営農の促進

日本農業を取り巻く環境は、内外とも厳しいものがあるが、このような時代に対応し、農業を振興し集落を守っていくためには、地域の人々が互いに知恵を出し合い、ひざを交えた話しあいの中から、集落の農業について真剣に考える必要がある。

久万町においては各種会合をより多くもち、集落営農の促進に努めている。



昭和60年度 産業おこしと地域づくりシンポ



昭和61年度 営農指導者協議会



昭和62年度 父二峰農構推進協議会



昭和63年度 集落座談会

農業協同組合歴代役員



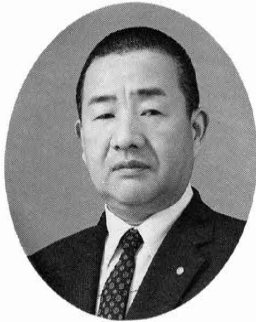
久万町農業共同組合
組合長 井部栄治
昭28年～40年



父二峰農業協同組合
組合長 上岡民好
昭33年～39年



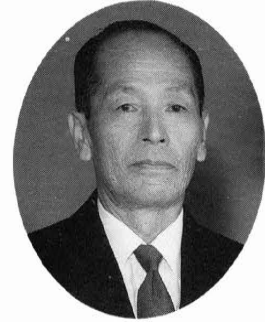
父二峰農業協同組合
組合長 井口利太郎
昭28年～33年
昭39年～40年



川瀬農業協同組合
組合長 小椋節三郎
昭23年～35年



川瀬農業協同組合
組合長 石丸正助
昭35年～40年



新久万町農業協同組合
初代組合長 田中 執
昭40年～44年
明神農業協同組合
組合長 昭23年～40年



新久万農業協同組合
初代組合長 土居 寛
昭48年～50年
久万町農業協同組合
組合長
昭44年～48年
畑野川
昭30年～40年



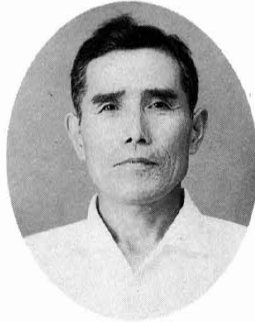
久万農業協同組合
二代組合長 坂本素行
昭50年～52年



久万農業協同組合
三代組合長 西森 勤
昭52年～現在
専務 久万町農業協同組合
久万
昭47年～48年
昭48年～52年



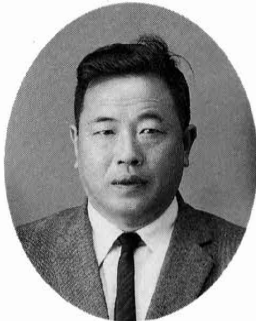
明神農業協同組合
専務 重松熊夫
昭34年～40年



久万町農業協同組合
専務 大野利男
昭35年～36年
昭37年～40年



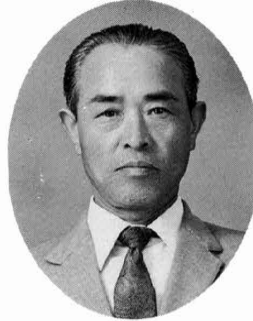
川瀬農業組合
専務 菅 薫明
昭23年～35年



久万農業協同組合
専務 白石研太郎
昭44年～47年
常務 昭40年～44年
父二峰農業協同組合
昭28年～40年



父二峰農業協同組合
常務 竹井 薫
昭39年～40年



久万農業協同組合
常務 成野 覚
昭33年～39年



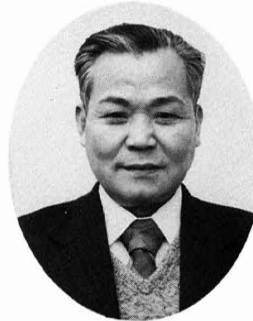
久万農業協同組合
常務 高木秀雄
昭48年～52年



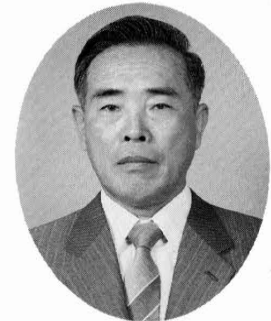
久万農業協同組合
常務 重見庄三郎
昭48年～49年



久万農業協同組合
専務 伊藤忠興
昭52年～現在



久万農業協同組合
常務 日野直親
昭52年～58年
畑野川農協 専務
昭39年～40年



久万農業協同組合
専務 館野義行
昭58年～現在



久万農業協同組合本所 昭和51年 5月落成



本所・生活課事務所



農機具・車両センター



トマト、ピーマン、栗の撰果場、野菜予冷库
農産物貯蔵庫、ライスセンター等の菅生施設団地



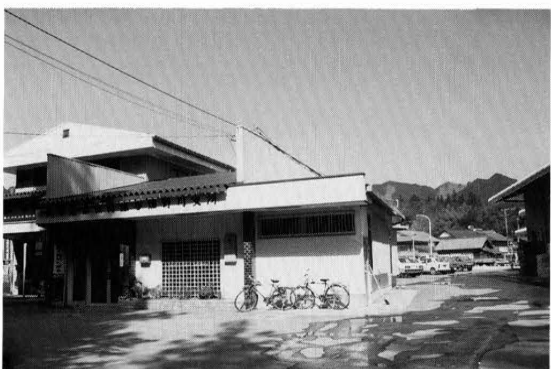
菅生施設団地の米の出荷とトマトの撰果



明神支所 昭和46年 3月落成



久万支所 昭和56年 6月落成



畑野川支所 昭和45年 3月落成



直瀬支所とAコープなおせ店
昭和49年11月落成



父二峰支所 昭和38年12月落成



上畑野川出張所とAコープひのもと店
昭和57年 9月落成



東明出張所



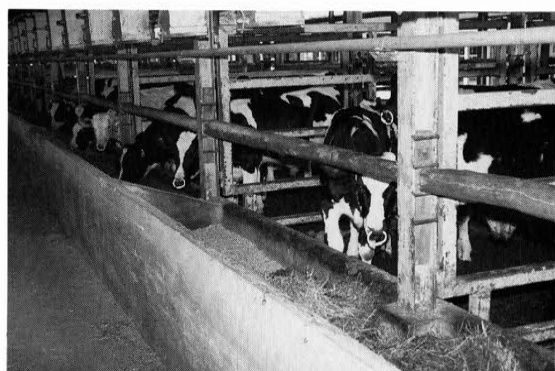
下直瀬出張所



二名出張所

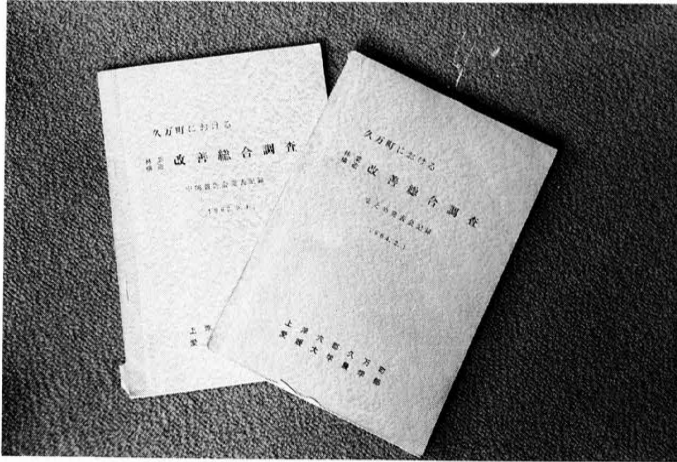
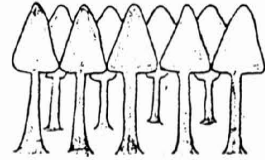


育苗センター（直瀬生産団地）



愛媛県経済農業協同組合連合会和牛センター

久万林業



◀林業構造改善総合調査で久万林業の方向づけが報告された。

昭和37年 8月 中間報告会

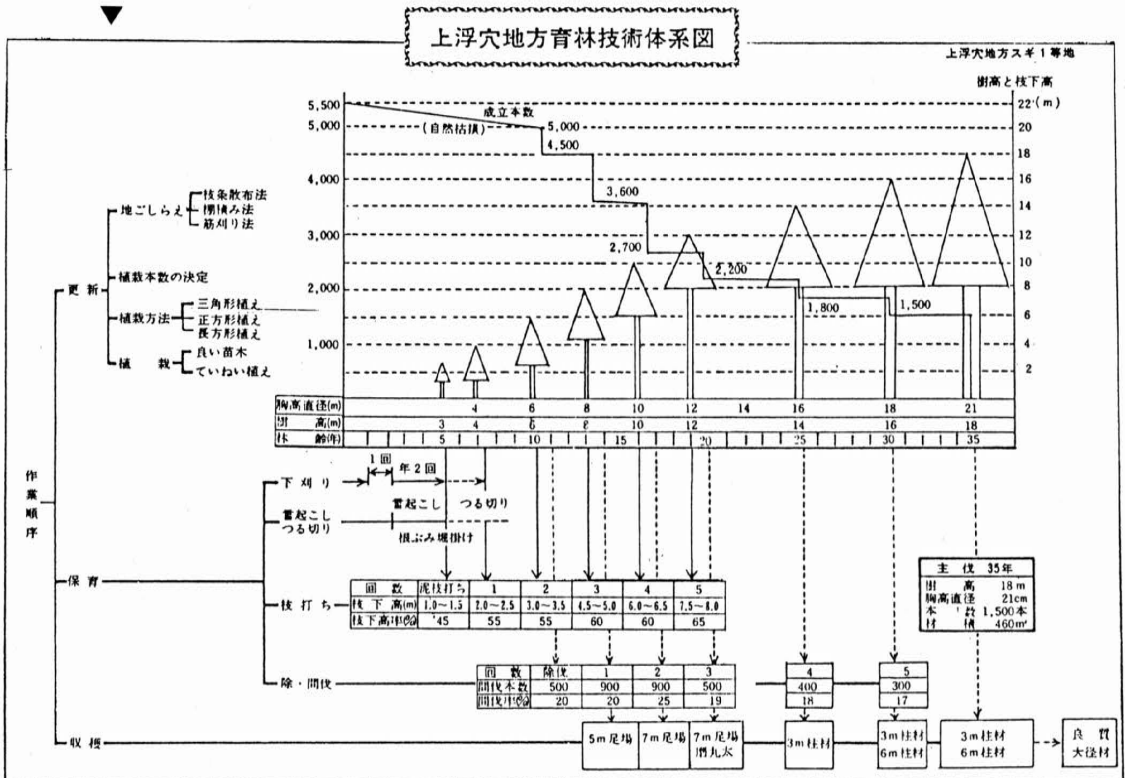
昭和38年 6月 まとめ発表会

◆昭和58年 6月

久万町役場に林業課が設置される。

上浮穴地方育林技術大系図が昭和44年に作られ

昭和62年 3月 1日に改正された。

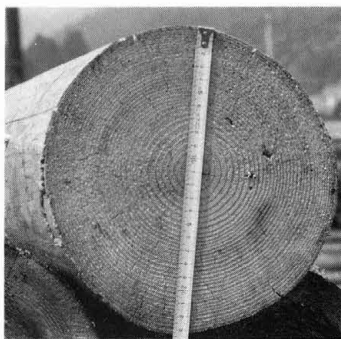




▲ 技打ち(昭和43年頃より行なわれる様になる。)



◀ 手入れされた山林



▲ 優良材

人工紋(昭和40年頃より)



▲ 複層林



磨丸太加工



除間伐の推進

本町でも間伐の遅れた山林が目立ってきており、町では独自に除間伐に対して補助金を出す。除間伐緊急対策事業を昭和61年度～昭和63年度の間実施している。

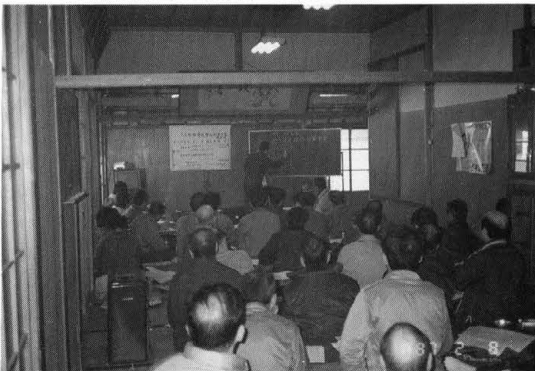


◀ 久万町除間伐緊急対策事業推進委員会
(昭和61年7月15日)

▼ 現地講習会



地域説明会
▼(昭和62年2月8日 下畑野川)



現地講習会
▼(昭和62年2月8日 下畑野川)



作 業 道

林道の補完として、開設された作業道



▲工 事 中



▲昭和60年、間伐促進総合対策事業
菅生 岩井谷線

林 内 作 業 車 道

運搬車を使った搬出を行う為に、林道、作業道を基幹として、林内作業車道の開設が昭和56年頃より栄んに行われる。

搬出▶



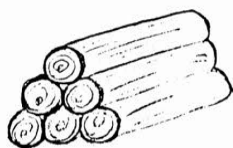
▲林内作業車道



▲工 事 中

木 材 市 場

昭和37年
久万町辻に松山営林署の
大貯木場が開設



昭和44年 (株)久万木材市場開設



昭和44年 県森連久万山木材市場開設



昭和60年12月
(株)父二峰銘木市場開設



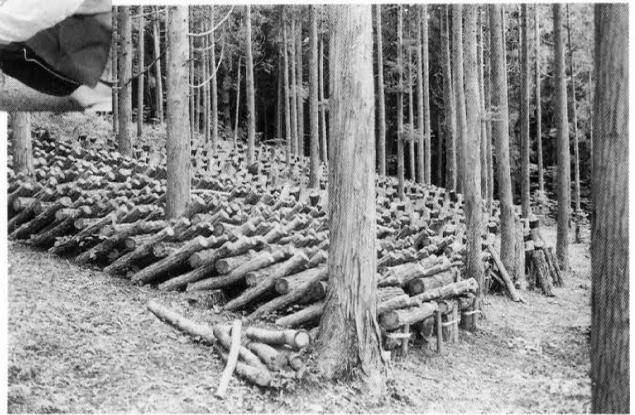
昭和61年
久万町森林組合木材市場開設

しいたけ

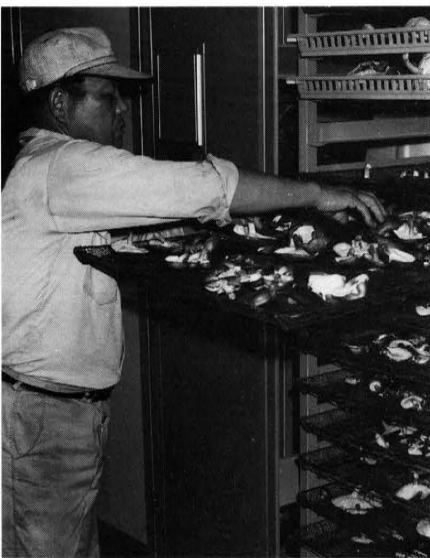
栽培の歴史は、古く江戸時代に始まるといわれているが久万町では昭和35年頃より、しいたけ栽培農家が増加してきた。



◀ 植 菌
12月～3月下旬まで行う。



▲ 立てこみを終った榎木



▲ 乾 燥



▲ 昭和47年、第一次林業構造改善追加事業
椎茸集荷選別場開設

炭 焼 き



◀昭和30年頃までは、燃料としてはなくてはならない存在であったが、プロパンガスの普及により衰退の一途をたどっている。



製材業流通懇話会

昭和60年2月20日、製材業流通懇話会が発足し、昭和60年6月21日より久万町共販として共同出荷が始まる。

昭和60年9月より、本格的に東京出荷が始まる。



▼県森連へ第1回出荷



▼摺り込み作業



乾燥について講師▶
を招いての勉強会



林業災害

久万町は、雪により多くの被害を受けており雪に強い品種選定が、急がれている。

◀ 雪害
(昭和38年1月)



▼ 林道の除雪



台風19号による作業道崩壊
▼ (昭和62年10月)

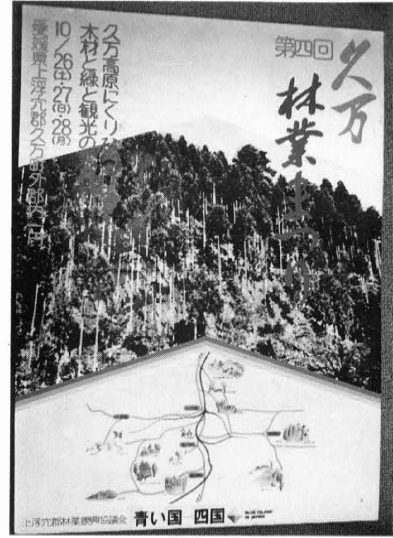


台風

台風19号による被害▶
(昭和62年10月)



久万林業まつり



◀ 第4回ポスター



▲ オープニング(昭和59年)



▲ 記念講演

林業危機突破大会 ▶
(昭和60年)





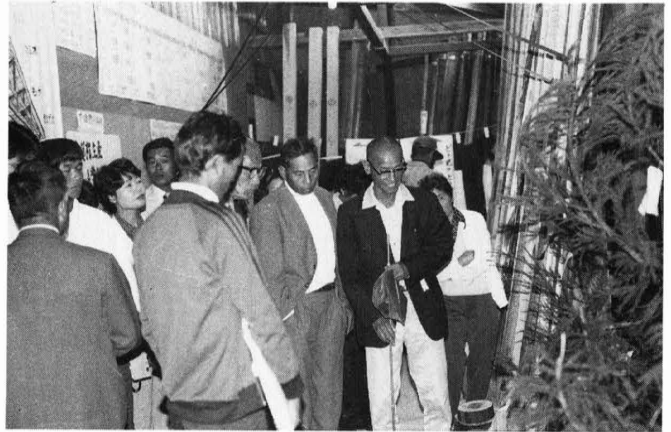
▲間伐推進大会(昭和60年)



▲コンクール表彰式



▲児童木工作品(昭和59年)



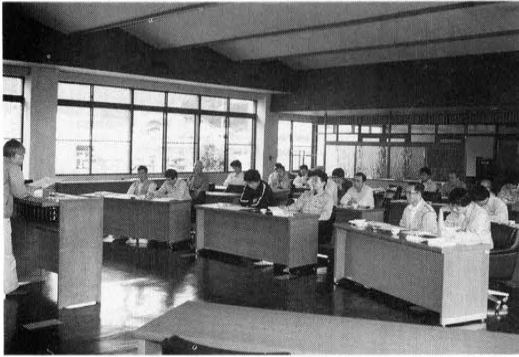
▲参観者への製品についての説明



▲植木



林業教育



昭和61年5月、日曜林業学校
(昭和59年より行われている)



婦人林業教室
(昭和49年より行われている)



さし木、接木の实技



婦人林業教室
技打ち実習



間伐実習



昭和62年9月
県外視察
北山、吉野方面

緑の少年隊

“緑を愛し
緑を育てる。”



昭和54年10月
畑野川中学校に緑の少年隊結成



昭和61年7月16日
久万、父二峰、直瀬中学校に緑の少年
隊結成される。



昭和55年11月
巣箱掛け



昭和62年1月18日
第1回愛媛県緑の少年団活動発表大会
畑野川緑の少年隊優秀賞受賞



昭和61年8月11～13日
少年の森体験キャンプ



久万林業振興に尽す



岡 譲氏（大正4年8月8日）

昭和37年11月23日、第一回農業祭、農林大臣賞（林業経営部門）
昭和46年3月8日、大日本山林会賞
昭和48年3月24日、木原営林大和事業財団賞

岡氏は、農村二、三男対策や零細農林家の経営改善など、地域の農林業振興に取り組み、所有林においては、台杉仕立、複層林、磨丸太の開発など積極的に新しい技術の開発導入を進め、常に久万林業の振興をめざして地域農林家の指導にあたっている。又、育林技術体系の作成には、自らの育林記録を公開し、その編さんと普及指導に中心的役割を果たしている。



相原佐加雄氏（明治40年7月11日生）

昭和45年9月25日、第9回農業祭、農林大臣賞（林業経営部門）
昭和45年11月23日、日本農林漁業振興会賞
昭和46年1月11日、愛媛新聞賞
昭和46年3月8日、大日本山林会賞
昭和48年3月24日、木原営林大和事業財団賞

相原氏は、小面積林業の集約経営に専念され、優良木材生産（上質無節柱材、磨丸太、大径木）に努力されるかたわら、林業研修の指導に尽し、地域林業経営の推進力となって、地域林業指導者として活躍している。



秋本 保氏（大正11年3月23日生）

昭和44年9月25日、第8回農業祭、農林大臣賞（林業経営部門）
昭和46年3月8日、大日本山林会賞
昭和48年3月24日、木原営林大和事業財団賞

秋本氏は、地方の造林事業、わけても枝打ち技術、枝打ち用鉋の改良を進め、秋本式枝打ち鉋、木登器を開発、研究により枝打ち技術の普及に努力して、地域林業の指導者として、地元林家の啓蒙指導に大きな役割を果たしてきた。



石丸 亨氏（大正15年6月2日生）

昭和51年7月、県林研協議会長賞
昭和55年5月、県知事賞（林業普及事業）
昭和56年8月、林野庁長官賞（第20回農林水産祭）
昭和62年9月、林野庁長官賞（第11回全国育樹祭）

石丸氏は、各林分毎の綿密な施業計画を樹て、育林日誌等の記録により作業工程の合理化を図り、地域指導林家としての実証的役割を果たしている。



西岡忠義氏（昭和4年3月1日生）

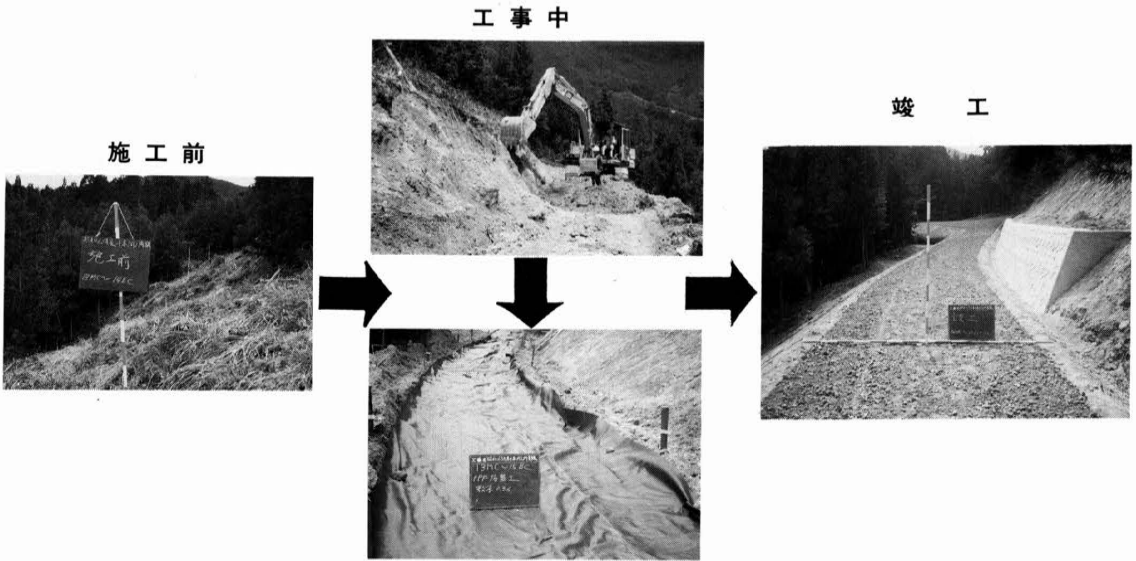
昭和59年4月、国土緑化推進委員会理事賞
昭和62年11月、林野庁長官賞（第26回農林水産祭）

西岡氏は、林内作業車道と搬出車について研究され、地域林業にその新技術を定着させている。又林業後継者育成にも積極的で、林研、婦人林業教室、日曜林業学校等の講師としても活躍してきた。

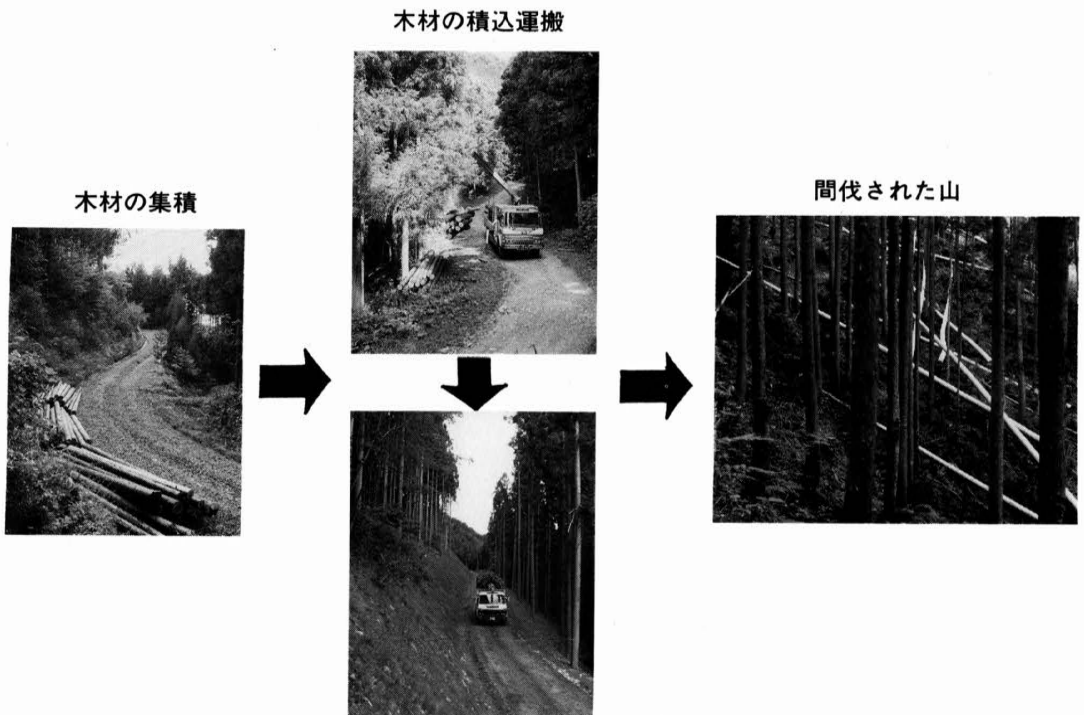
林 道

林道の開設により、間伐等の森林の保育が促進され、森林資源の有効利用又、久万林業の経営の安定化が期待される。

1. 林道開設ができるまで



2. 利用効果



現在までに開設された主な林道



昭和51年及び昭和53～昭和58年度施行
千本、河之内線



昭和51年～昭和52年度施行
菅生、宮の前線



昭和54年～昭和55年度施行
芋坂線



昭和54年及び昭和58年～昭和59年度施行
千子田線

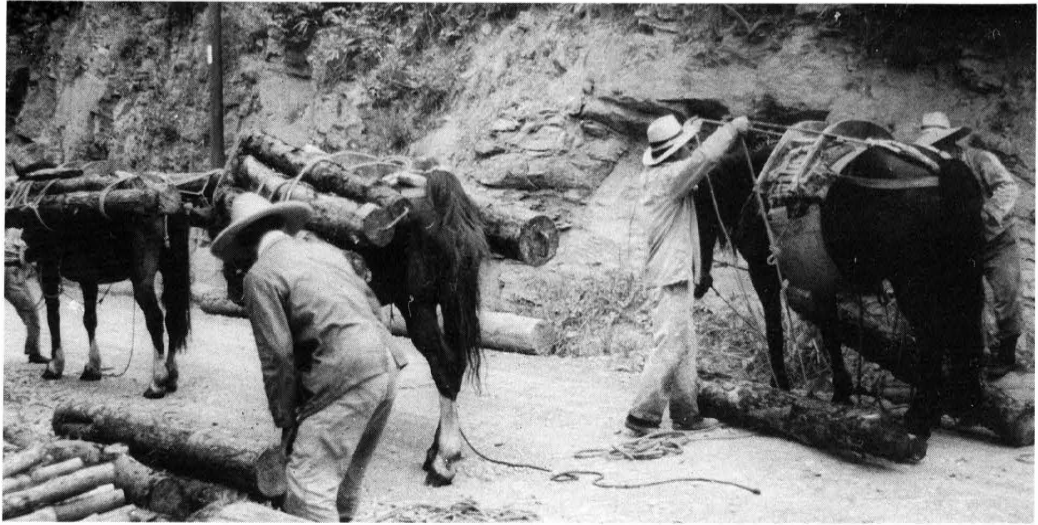


昭和56年～昭和58年度施行
中組奥線



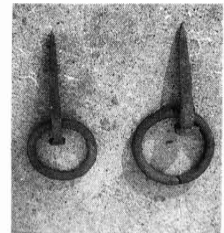
昭和59年～昭和62年度施行
本組線

木材の搬出方法



○ 駄馬による木材の搬出
郡内最期の駄馬
昭和55年5月直瀬（桜木峠）

テンコロを木材に打込んで駄馬もしくは人力で引っぱって搬出をおこなった。



テンコロ

○ モノレールによる木材の搬出



林内作業車のいろいろ



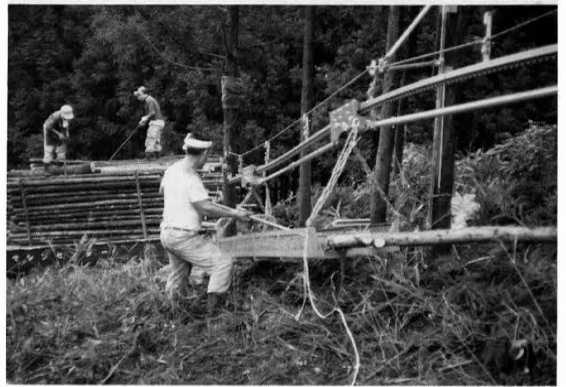
○キャタトラ(左上・上)
クレーン付自走式運搬車

○ミニクレーン車(左)

昭和46年ごろ使用された木材運搬車 (タイヤ式)

デルビス





昭和53年度

ツリーラック開発



現在多く使用されている木材運搬車
(キャタピラ式) 機種が豊富である。



町有林管理



←採穂林
↓穂木採取
育苗畑でさし木苗にする



←直営育苗畑
✓↓昭和55年度、上畑野川の銭々川山植栽
まで全て直営生産苗にて植栽
挿付本数毎年8,000本(タカナワ、イヨ
スギ、沖ノ山、シバハラなど)





地 拵 え

集め焼き 12～1月ごろに
行う。1ha当30人役



植 栽

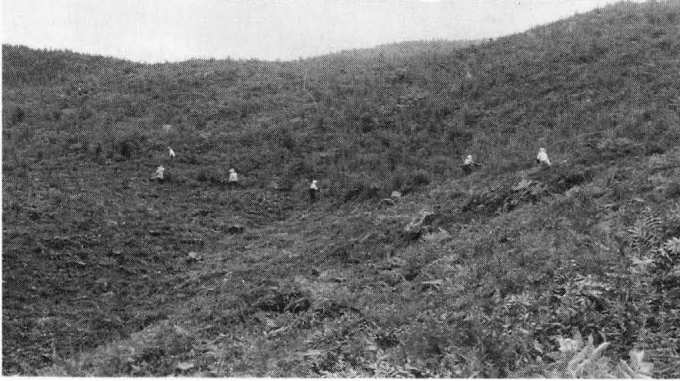
地拵えのあとへ植栽

1ha当5,000本植(150本/人)

尾根筋に病害虫・風害・火災防備の
ため雑木を残す。

①副木立て(通直材の育成)





下刈

成長を良くするための草刈

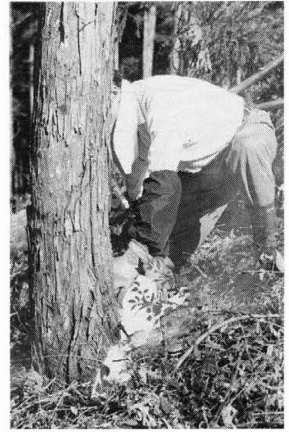


枝打

① 泥枝落とし

② 枝打

除間伐



皆伐

昭和54年度迄



良質材生産
枝打林分

㊦ 上野尻池ノ峠山
66年生。成林



二段林（択伐林）
多段林経営も行っている。



町有林直営作業道



(ブルドーザー)

直営作業道開設

昭和54年度から町有重機を利用して、 $W=3.6\text{m}$ の簡易作業道を開設している。



(バックホウ)



作業道補修



作業道砂利敷

直営作業道(林内作業車道)開設

昭和62年度から町有重機を利用して、 $W=1.5\text{m}$ の作業路を開設し、生産費等の軽減をはかっている。



小型バックホウ

記念植樹



合併20周年記念植樹

昭和53年度、露峰ヒキチウ子山1.68ヘクタールにスギ7,200本ヒノキ800本植栽する。



昭和60年度

国際森林年記念植樹
町有林タルガ谷山において緑の少年隊による植樹



県立上浮穴高等学校(林業課)
実習地



上野尻池ノ峠山
ヒノキ次代検定林

- Ⓣ 昭和47年度植栽
- Ⓛ 昭和63年度林分(16年生)

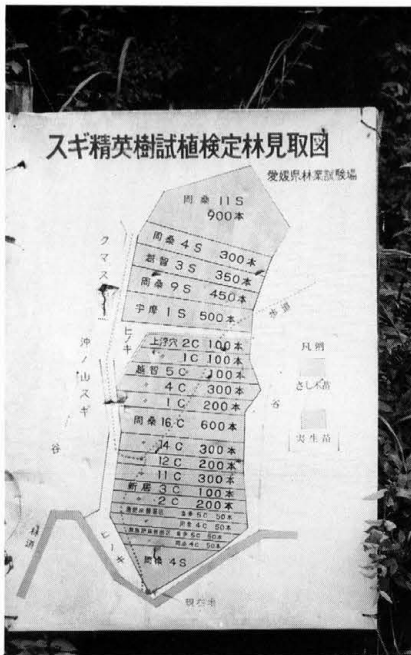


試 験 林



喜多1号

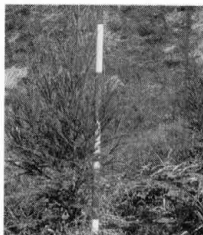
町有林においての各種試験林の設置
シバハラ・サンプ・タカナワ・クマヤ
マ・イヨスギなど試験している。



群状択伐作業試験林
(面積 1.085 Ha)

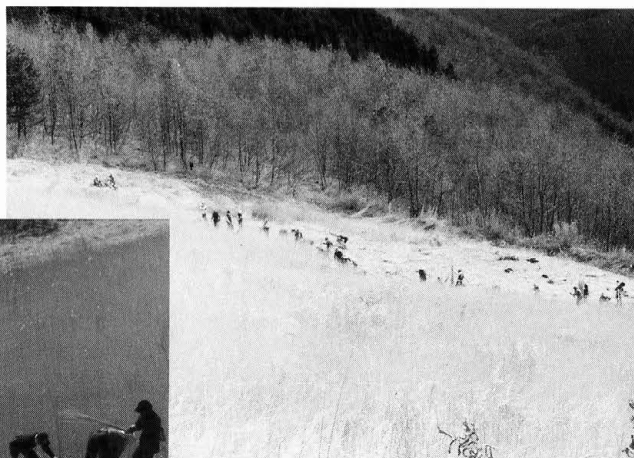
| 年次別 | 1964 | 1969 | 1974 | 1979 | 1984 | 1989 |
|--------------------|------|------|------|------|------|------|
| 本 主木 | 784 | 688 | 762 | 1064 | | |
| 数 副木 | 2 | 217 | 862 | 632 | | |
| 材積 (m³) | 2891 | 3116 | 3544 | 4061 | | |
| 主木年平均 生長量 (m/年) | 159 | 131 | 110 | 170 | | |

久万町・愛大農学部



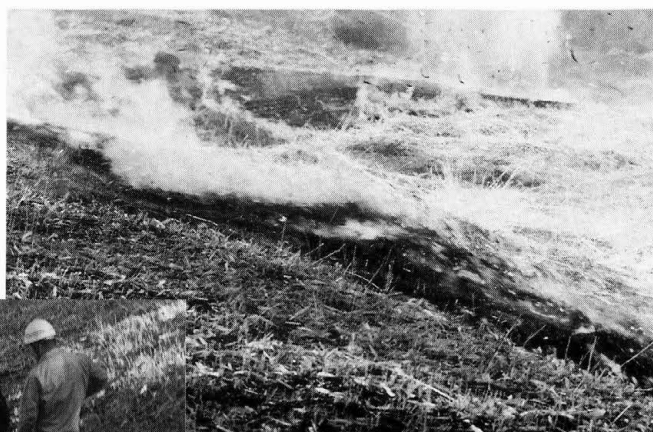
イヨス山 整備

毎年3月、西明神創作館と
久万町で整備



イヨダケ刈取

イヨス山焼



幼令木の敵



←ウサギによる
被害木



ワナによる野ウサギの補獲 →

(ノウサギの駆除事業)



ネズミの薬剤散布→



ネズミによる被害木



ネズミの被害を受けて傷が
なおった木



松くい虫被害対策



松くい虫の被害が進み
葉量が少ない



被害木



カミキリムシの幼虫



松くい虫の被害と対策について
協議

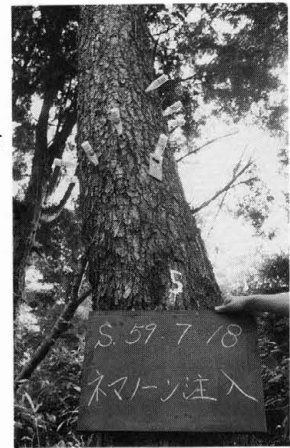


古岩屋にて

昭和56年度より防除

- ㊦ 昭和56年度より地上散布
- ㊧ 昭和59年度薬剤注入による防除

昭和61年度よりヘリコプターによる防除
(空中散布)



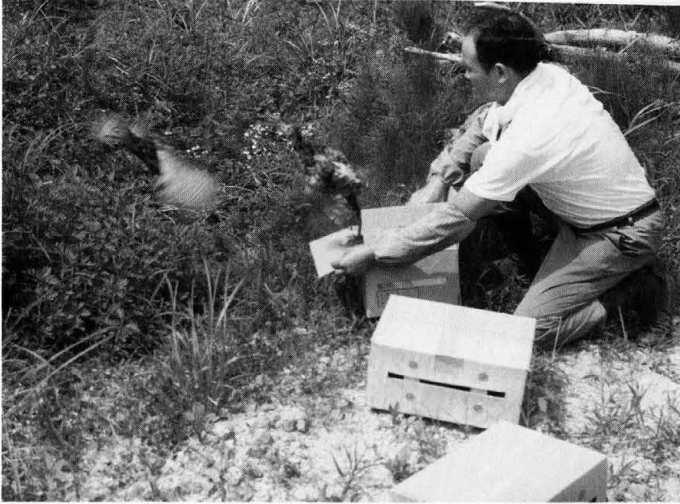
笛ヶ滝公園にて

景勝地 古岩屋

笛ヶ滝公園



キジの放鳥



昭和49年度から毎年キジの放鳥を休猟区でおこなっている。昭和63年度は200羽(雄100羽、雌100羽)の放鳥をおこなった。

ふるさとの森事業



現地説明会



ふるさとの森案内板



枝打作業

ふるさとの森（分収林事業）

直営町有林の約10%に当る78.01haを対象として1口30万円で会員を三次にわたり募集し、全国27都道府県の会員と983口830人の分収契約を締結した。

契約内容は、町有林を評価し、森林の造成に要する費用を久万町と出資者が半額ずつ出しあい、20年後に伐採を実施し、収益の半額を出資額に応じて支払う。

| | 一次 | 二次 | 三次 | 計 |
|-----|----------------------|-------------------------|----------------------|-----------------------|
| 面積 | 34.99ha | 33.08ha | 9.94ha | 78.01ha |
| 樹種 | スギ・ヒノキ | スギ・ヒノキ | スギ・ヒノキ | |
| 林令 | 25.28年生 | 21.22 23.24 26.27.30 | 21.25年生 | 21~30年生 |
| 本数 | 87,475本 2,500本/ha | 85,975本 2,600本/ha | 21,868本 2,200本/ha | 195,318本 2,500本/ha |
| 評価額 | 307,000円 | 229,200円 | 60,600円 | 596,800円 |



枝打作業後の林分

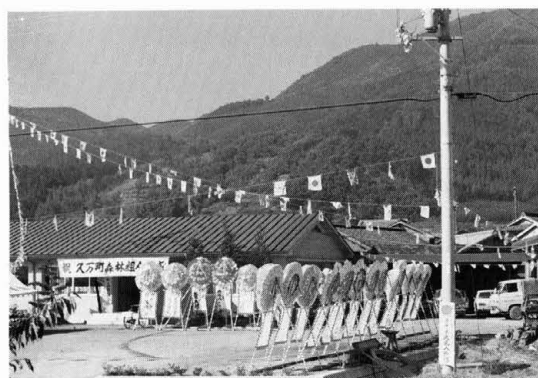
久万町森林組合



▲昭和41年3月15日
川瀬、父二峰、久万森林組合合併、
久万町森林組合として発足。

昭和41年3月15日、久万、川瀬
父二峰森林組合が合併して、久万
町森林組合が誕生した。

現在、組合員1,285名で、特色あ
る久万材として販路を求めて、木
材供給基地作りに努めている。



▲昭和47年 久万町辻へ
本所移転



◀昭和55年
林業構造改善事業に
より国産材加工施設
完成



▲昭和61年 原木市場、落合へ移転

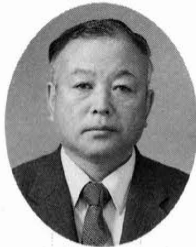


▲昭和63年、木工プラザ
クマシンオープン
木工加工、しいたけ直売所

久万町森林組合歴代役員



井部 栄治
久万森林組合組合長
S25.6～S41.3
久万町森林組合組合長
S41.3～S61.10



関井 義弘
久万町森林組合
常務 S46.4～S51.5
専務 S51.5～S61.10
組合長 S61.10～現在



竹井 薫
父二峰森林組合組合長
S28.6～S39.5



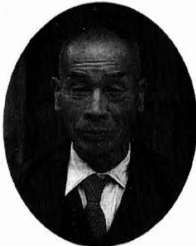
井口利太郎
父二峰森林組合組合長
S39.5～S41.3



小椋寛一郎
川瀬森林組合組合長
S33.4～S35.2



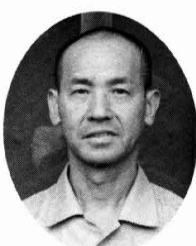
日野 哲
川瀬森林組合組合長
S35.2～S35.5



渡部 累長
川瀬森林組合組合長
S35.5～S38.5



段ノ上 明
川瀬森林組合組合長
S38.5～S41.2
久万町森林組合
常務 S42.5～S46.3
専務 S46.4～S49.10



岡 譲
久万町森林組合副組合長
S41.3～S42.5



山本 浅夫
久万町森林組合
専務
S41.3～S45.12



竹内 友長
久万町森林組合副組合長
S42.5～S46.3
S50.7～S52.5



高岡 文雄
久万町森林組合
常務 S52.7～S61.10
専務 S61.10～現在

国道33号線



久万町を走る国道33号線



急がれる防災工事
三坂峠附近



町内を走る旧国道33号線

国道33号 本格改良を

松山 → 高知

沿線 市町村が期成同盟

難雨



国道33号線整備促進期成同盟会設立総会
S.60.11.28 於久万町役場

愛媛・高知の県都を結ぶ幹線道路・国道33号の本格的改良を動きかける。十八日設立された。上浮穴郡久万町の町役場会議室で開かれた設立総会には、愛媛県から上浮穴郡の五町村、松山市、伊予郡砥部町、高知側から香川村、越知町など、沿線関係十三市町村の首長、議長、担当課長ら三十八人が出席。会の規約、事業、役員などを決めて、国や関係機関に早期整備を動きかけてゆくことになった。

「三坂下ニネル」

国道33号線整備促進期成同盟会設立趣意書

国道33号線は、愛媛・高知の県都を結び、沿線12市町村の産業経済等発展に多大の役割を果すとともに、広くは九州・中国と四国さらに瀬戸内と太平洋を結ぶルートとして進展社会の需要に応じてまいりました。

本路線は、昭和34年度、第2次道路整備5箇年計画により着手され、9箇年を経て昭和42年度に現在の線形として完成されたものです。

しかしながら、完成以来18年の経過は、飛躍的な産業構造の進展に伴うモータリゼーション社会の出現で、四国西南幹線道路としての機能を果せない状態となりました。

このため、関係市町村が一丸となり、郷土発展の根幹となる33号線の全面的整備を促進すべく、ここに、国道33号線整備促進期成同盟会を設立しようとするものであります。

昭和60年11月28日

国道33号線整備促進 総決起大会



国道33号改良へ関係者300人を結集した総決起大会
＝美川村環境改善センター S.61.2.16

同盟会
 関係者
 一層は
 を「33号は四国の中で最も遅
 れている国道」だと述べた。
 議事に移り、「防災工事の
 促進▽バイパス早期整備▽局
 部改良、管線整備▽トンネ
 ル早期構想促進などを
 全会一致で決議。この中、
 知八市
 会・民
 として
 建設局
 の玉塚
 県知事
 ら計三
 が一今
 じた
 化で十
 坂峠や
 ・注民
 を結果
 訴えよ

松山・高知を結ぶ幹線、国道33号の早期改良を、昨年愛媛、高知両県の協議十五市町村で設立された「国道33号整備促進期成同盟会」会長・河野修久万町長、事務局・久万町の総決起大会が十六日、上浮穴郡美川村御三井の大会宣言を採択した。

三坂トンネル構想化早く

——国道33号整備で決起大会——

関係市町村
から300人
陳情活動など強



総決起大会に結集した関係者

大会スローガン

- 1 高知―松山間二時間にもかけての改良促進
- 2 バイパス 高知⇄伊野間の整備促進
松山⇄砥部
- 3 防災工事・歩道整備で安全な道路の確保
- 4 三坂トンネルの早期構想化の推進



標高720m 積雪にて交通渋滞になる三坂峠附近

国道33号の難峠(標高720m)トンネルを抜き不便を解消しようが、上浮穴郡やど前から続けられた国の六十二年度トンネルの計画可の調査費が計、このほど明、地元では「悲願大きな前進」と主に図上での上調査が中心。術的可能性、経調査する。建設務所が近く業者施す。同事務所の村長は「あくまで

三坂トンネルに調査費

悲願の計画へ可能性探る



起特大のマッチにて各機関へのPR

長身った心もが雪が雪す異報き討たもに

カ今少一...の運町現協力会(中心に三市町村が河野修



国道33号線に大きな看板を立て通行人の目をひいている



郡内のドライバーに配布して自動車にてのP.R

7年度予算

陳 情 書

建設大臣
越智 伊平 殿



国道33号線整備促進期成同盟会

松山市・砥部町・久万町・面河村・美川村・柳谷村・小田町
高知市・伊野町・日高村・佐川町・越知町・吾川村・仁淀村



地元建設大臣を訪づれて再三の陳情を

国道380号線



昭和11年11月に開通の旧真弓トンネル

真弓隧道の貫通を祝って固い握手をする
久万町長河野修・小田町長林興一郎 S.61.8.28.



着工のはこびとなった待望の真弓隧道起工式
S.60.1.26.



真弓隧道の貫通を祝して鏡開をする関係者

真弓トンネル4月に開通

久万と小田の境
新規に建設

積雪、凍結の悩み解消

上浮穴郡久万町と小田町境の国道380号真弓峠の難所を解消する、新しい真弓トンネル（久万町又野川―小田町



完成した新しい真弓隧道 S.63.4.5.

大平、七百十町)の本体工事がほぼ完成、四月上旬に供用開始の予定。
真弓峠を通る現在の真弓トンネル(延長二百三十五丈)は昭和十一年の建設で一車線しかなく、トンネル内で車線離合ができない。標高が六百四十七丈あり、前後の峠道は傾斜のきつい急カーブが連続し、特に冬期は積雪や凍結で交通が困難。
このため、県が五十九年に新しい真弓トンネルを着工。峠のふもと付近の標高五百七

十町前後を通るとあって積雪、凍結の心配が大幅に解消され、距離で二・六キロ、車の所要時間は冬季で十五分、夏季で七分短縮される。
新トンネルは一車線で、高さ六・一丈。昨夏に全体の掘削が終わり、年末に完工検査も済み、舗装もされた。現在は照明、防災設備を工事中。また取り付け道路は久万側と小田側を併せ千二百九十丈で、三月末までに舗装などの工を行う。総事業費は取り付け道路も含め二十一億円。



竣工を祝ってテープカットする関係者 S.63.4.5

(国)380号
真弓トンネル
竣工 昭和63年3月
延長 710m 総幅 9m
愛媛県
施工 (株) 間組



旧道と走り良くなったパイパス380号線
橋詰地区



380号線 露峰工区に6本の橋が架設
最大の橋(大元橋)L=53 m S.63.



完全に2車線自歩道もついた380号線
中村附近 S.62. 完成



花壇もつきドライバーの気持を落付かして
くれる道路 真弓隧道附近 S.63.

県道 上尾峠久万線



久万町・広田村を最短で結ぶ路線調査
をする関係者 S.60.6.6.



尾峠、久万線改良促進期成同盟会規約

第1章 総則

(趣旨)

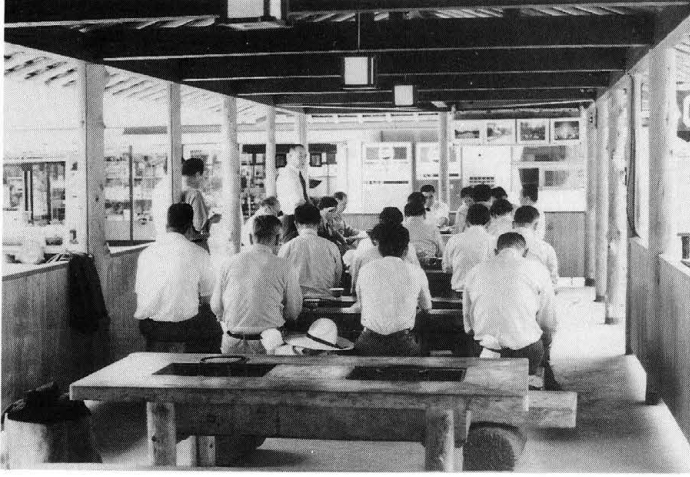
第1条 この規約は、県道上尾峠、久万線改良促進期成同盟会(以下同盟会という。)の組織及び運営について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 同盟会は、全線早期開通の促進を図ることを目的とする。

総合開発及び交通体系の改良促進することを目的

を行なう。



全線の早期開通に向け協議する
総会 S.60.6. ふるさと村にて



市員の狭い県道



改良され架け替された新葛城橋附近



改良後のタラタラ水附近

県道
西条・久万線



主要地方道 西条・久万線に住民待望の隧道開通



開通を祝っての神事 (S.46.)



改良済の西条久万線



整備された道路 ふる里村入口附近

町道



開通記念標柱建て

由良野、ヒワ田線開通



林道から町道になった記念柱





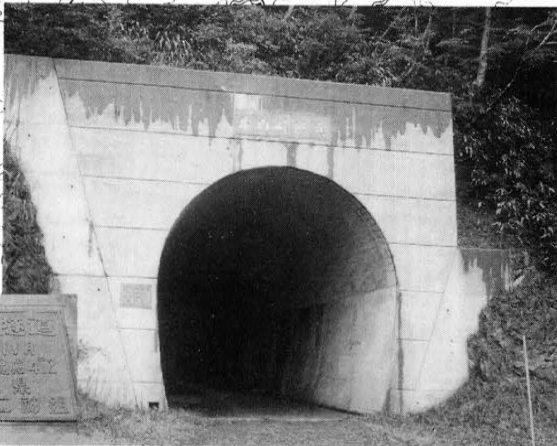
久万町で峯越林道第1号として開通
 久万町と川内町が近くなり喜び合う住民 S.53.

町道(併用林道)

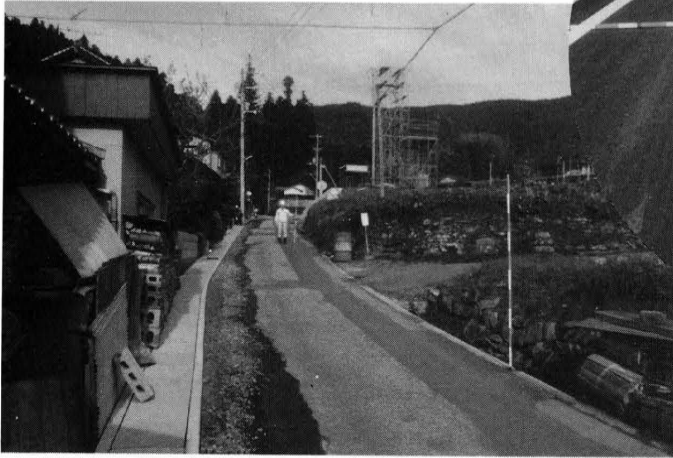
梅ヶ谷線



町道梅ヶ谷線(併用林道)を県道昇格へと
 関係機関により調査



久万町と川内町を結ぶ井内峠隧道
 L=124.7 W=4.2 S.54 S.53.11.



霊場44番大宝寺に通ずる道路 大坊線 S.58年 施工前



施工後



施工前 離合も出来ない狭い道

宮の前・明神線 S.60年



施工後 歩道も同時施工



除雪により通行可能に



耕地の中へ新設された 井上線

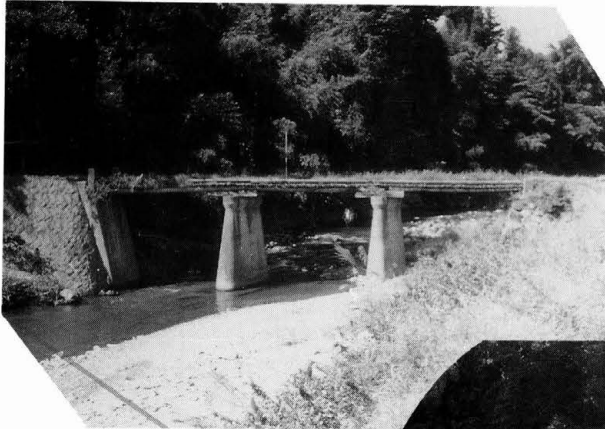


施工前



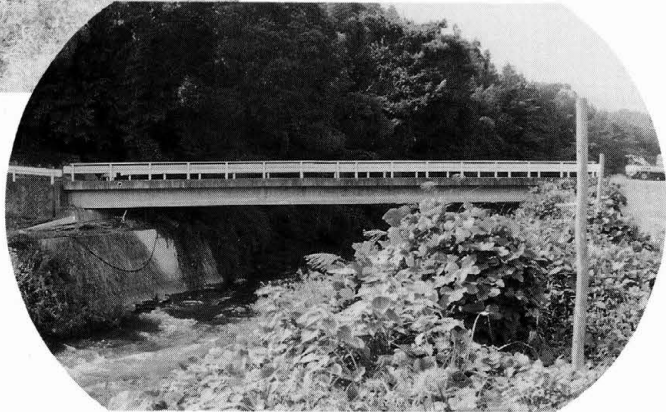
施工後

橋



岸の下橋

施工前 老朽化した木橋



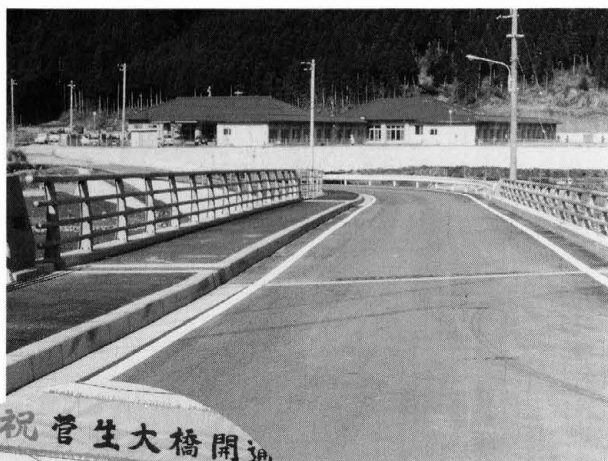
施工後 P.C橋で架設 L=30m、 S.54年



施工前 老朽化した木橋

施工後 完成したP.C.橋 L=17m
S.62年





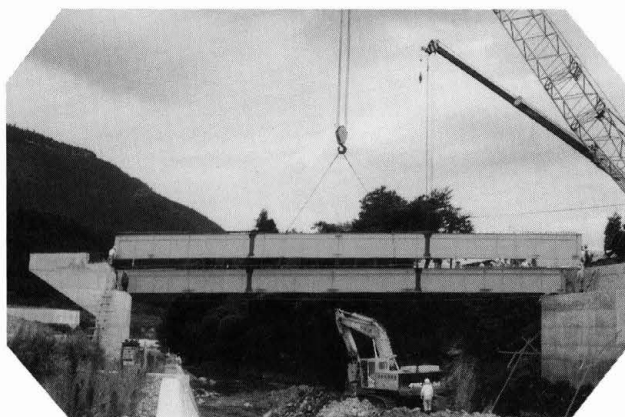
完成した久万大橋



テープカット



三世代夫婦渡り初め



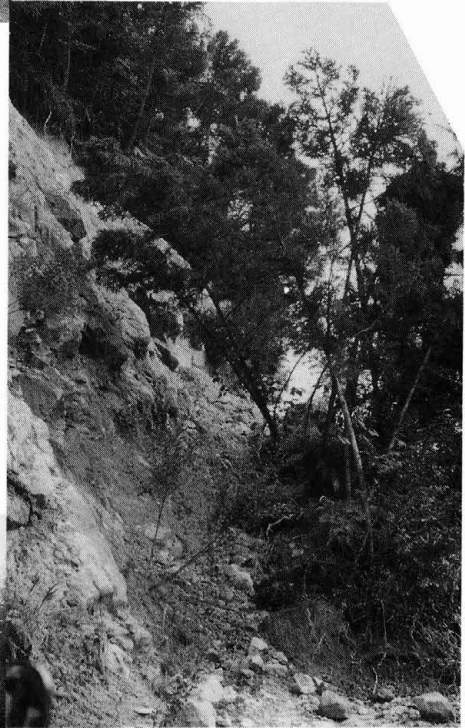
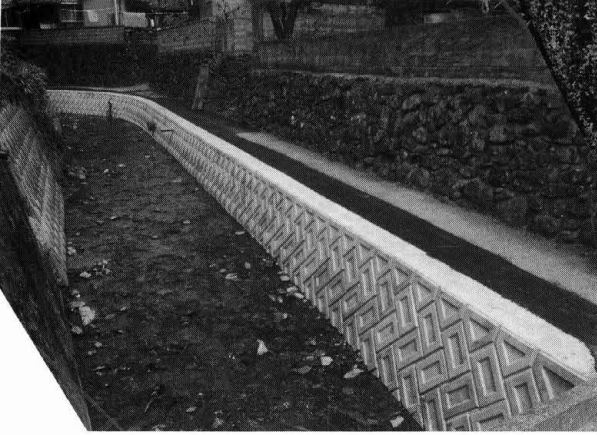
工事中の久万大橋

災

害



生活排水路の整備（風呂川）

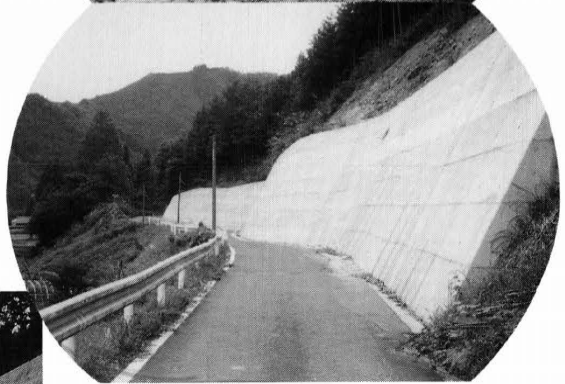


土砂くずれ





路肩くずれ



護岸復旧

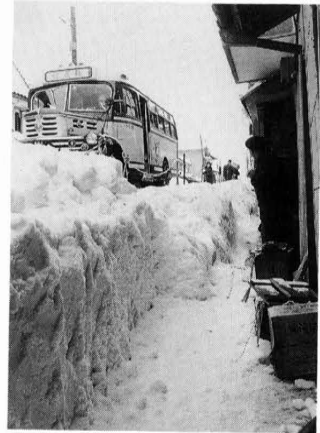
運輸



松山～高知を結ぶJR（久万駅）



改修前の33号線を走る（落合附近）



豪雪の中を走る（久万町内S.38年）



地方道の交通機関
（伊予鉄久万駅）



間伐材を利用した停留所

通信



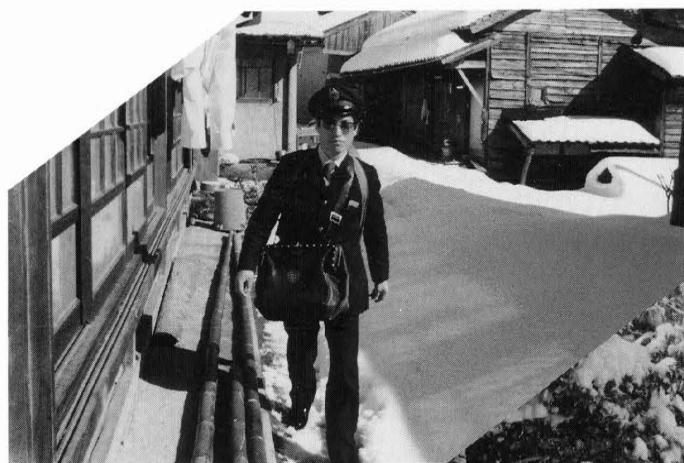
思い出す昔のポスト



簡易郵便局のポスト



スマートになった
現在のポスト

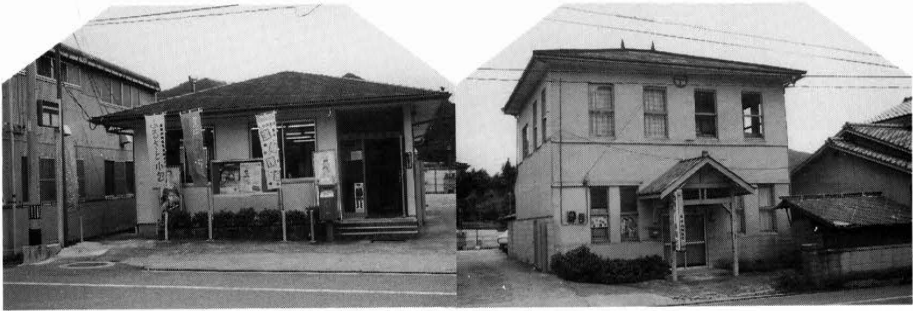


雪が降っても
これは休めない





配達に出発



畑野川郵便局



直瀬郵便局



父二峰郵便局

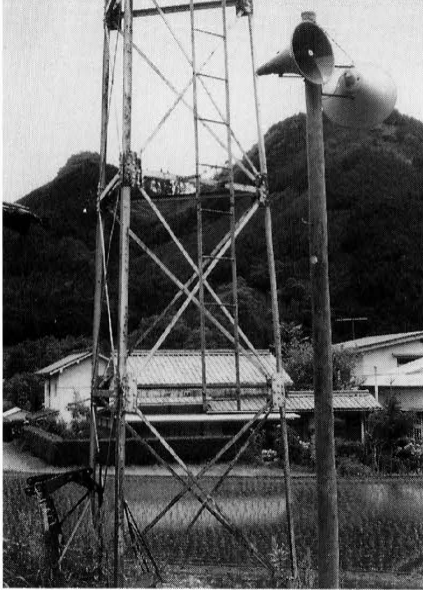
防災無線システム



放送室



防
災
無
線



有線放送頃の
ハンザマスト



無線を受け流す
ハンザマスト

防災の指示をする指令車

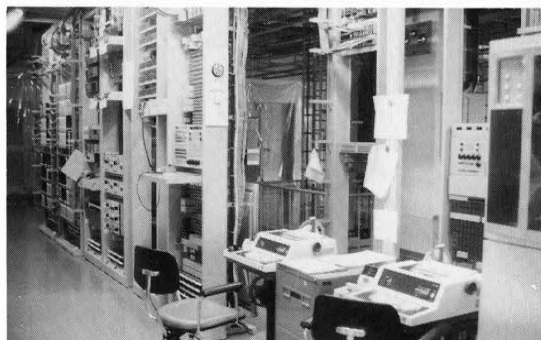
NTT



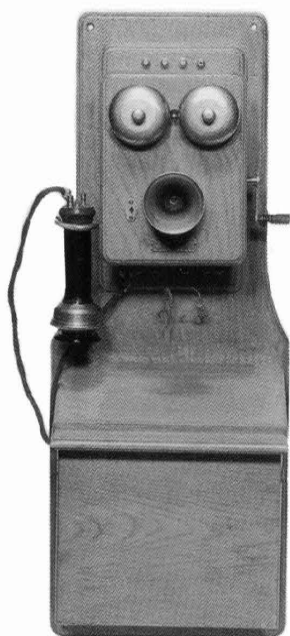
今は見られない手動交換手



NTT久万局



人影が見えない現在の交換機

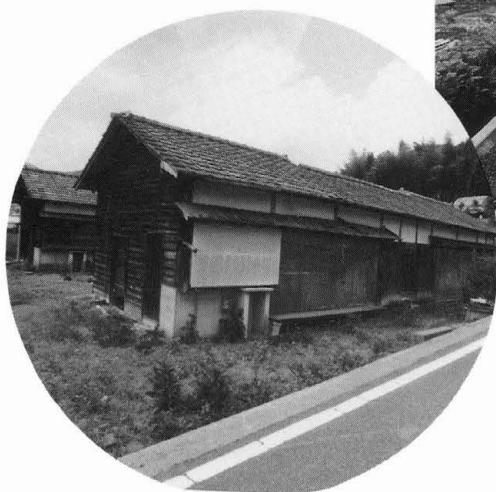


明治32年頃の受話器



プッシュホンに変わる（昭和48年）

公営住宅



昭和28年頃建築の住宅（直瀬）



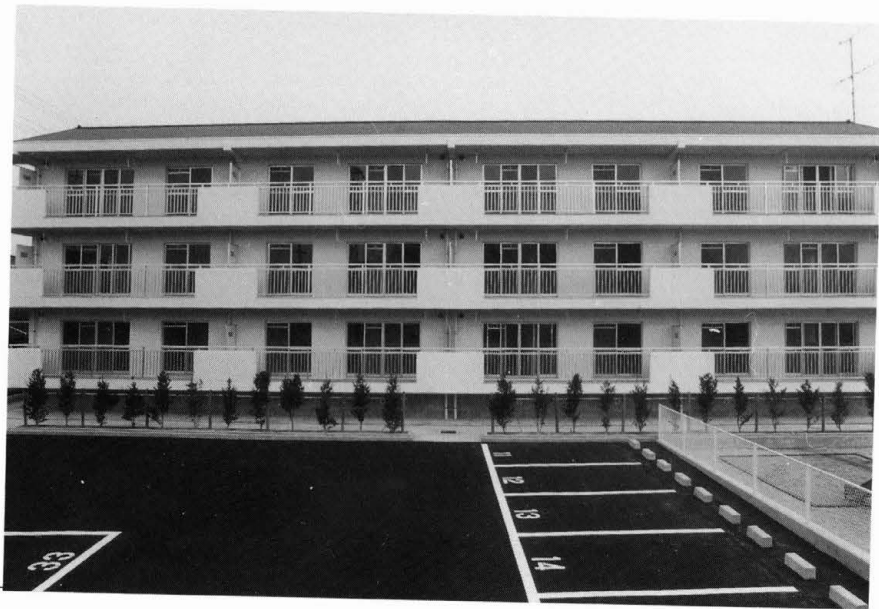
畑野川（S.62年完成）



直瀬（S.62年完成）



露峰（S.63年完成）



高級マンション風の住安団地 (S.62年完成)



ブロック平屋建の初まり 春日台団地
(S.43年完成)



二階建の野尻団地 (S.55年完成)

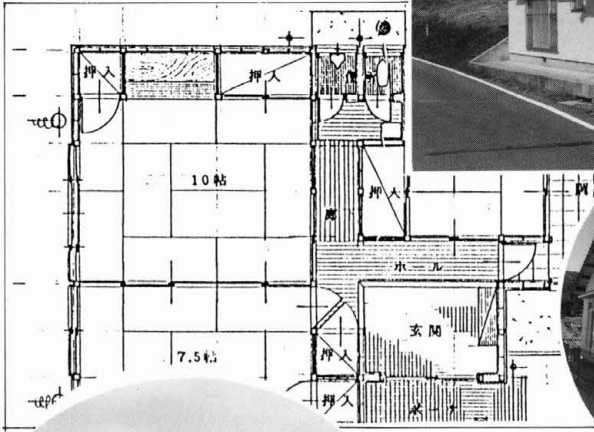
集会所



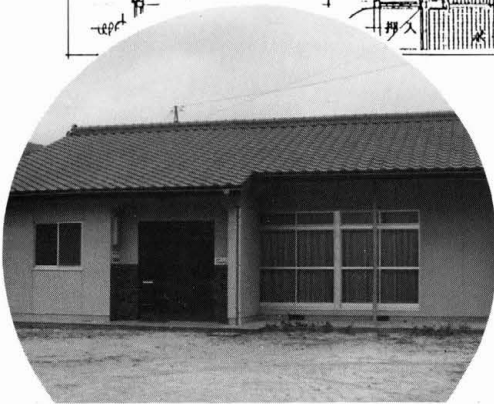
黒沢集会所 (S.59年完成)



若宮集会所 (S.61年完成)



露峰中組集会所 (S.58年完成)



東明神中組集会所 (S.57年完成)



明杖集会所 (S.61年完成)



本組集会所 (S.62年完成)



近代的な現在の齋場（S.55年完成）



近代的な設備を導入

待
合
所



ふるさと旅行村



民家
移築

S56



渡
辺
家

昭和47年に自然休養村事業の指定を受け農林家の経営の安定向上と都市生活者に農業体験や休養の場を提供し、観光交流事業を進めることを目的としてスタートした。

- 自然休養村事業 321,905千円
- 農村地域農業構造改善事業 154,922千円
- 中規模観光レクリエーション地区整備事業 302,170千円
- 町単独等整備事業 125,800千円

52年7月30日 ふるさと村オープン
（民家、土蔵、辻堂、炭窯、山村歴史館等）
56年4月28日

（体験実習館、つり堀、かぶと虫園等）
59年4月24日 家族旅行村オープン
（ケビン、祭広場、キャンプ場、管理棟地）



オープン当初のふるさと村周辺の山林



自然休事業（歴史館、民家、辻堂、食堂等）52年オープン



満員御礼ふるさと村



農構事業（民家3棟）56年



農構事業（体験実習館）56年オープン

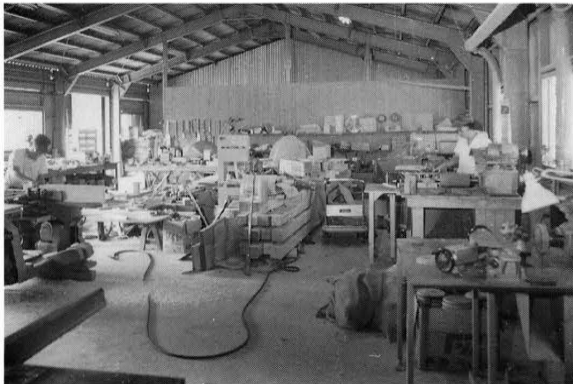
● 自然休養村事業(昭和48年～53年)



自然休養村管理センター落成式典



自然休養村管理センター(昭和53年)



久万高原特産物加工組合(昭和50年)



きのこ園整備事業(昭和48年)

● 家族旅行村 (昭和56年～58年) キャンプ場、ピクニック広場、ケビン、管理棟他



お祭り広場



キャンプ場



ケビン
10棟



管理棟

ふるさと村のイベント (ふるさと体験)



マスのつかみどり



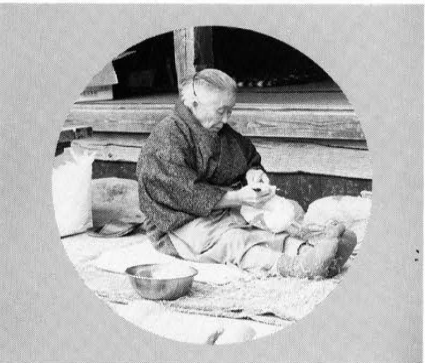
キャンプファイヤー



豆腐づくり



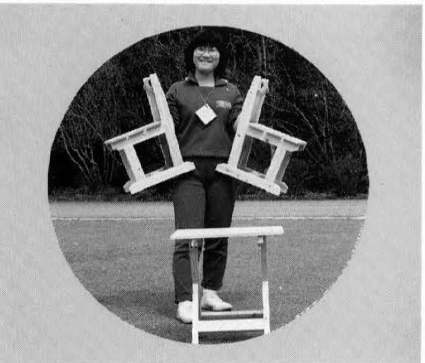
りんご狩り



わらじづくり



炭火料理



オリエンテーション一等賞



国際親善交流会

名勝「古岩屋」



古岩屋「礫岩峰」



杖立さん(昭和49年4月)



古岩屋荘起工式(昭和49年1月11日)



古岩屋 休憩所、食堂



古岩屋荘オープン(昭和49年11月)



不動尊（住吉神社のガヤの一木づくり）

古岩屋荘は、久万町の観光の起爆剤として、自然休養村の指定に基づく観光開発構想から出発したもので、幾度にも渡る温泉脈のボーリング調査の成功により、温泉のある国民宿舎として昭和49年から創業を開始し、現在14年目を迎え、中四国では上位の営業成績となって、お四国さん巡礼の参拝客を初めとし、多くの方にご愛顧いただいている。

また周辺の施設として、不動尊、礼拝堂、大師堂、杖立さんが昭和50年に落慶・開眠法要が行なわれた。

特に、不動尊の復元安置については、気運の盛り上がりから、奉賛会を結成し愛媛県美術会名誉会員故佐竹英一氏に依頼、原木は住吉神社境内の樹齢5百余年のガヤの木で製作した。

また60年には、これらの10周年を祝った。



建設当初の国民宿舎



休憩所での特産品販売



現在(昭和63年)の国民宿舎



(昭和60年4月)不動尊落慶10周年式典

憩いと潤いの場 自然公園

●名勝「古岩屋」 昭和19年11月7日 文部省指定



●皿ヶ嶺連峰県立自然公園 昭和42年1月25日 県指定自然公園

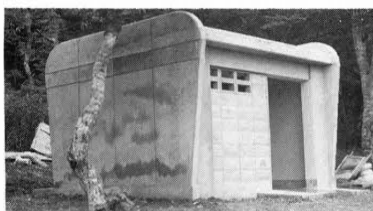


美しいブナ林

●笛ヶ滝公園 (水と緑の憩いの場)

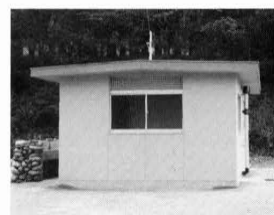


キャンプ場



トイレの新設
(昭和52年)

毎年、7月1日にはお山開き。久万町では、山道の草刈や、トイレの維持管理に努めている。



トイレ新設(昭和51年)



古い休憩所の修繕



(昭和52年)新設になった水上休憩所

●千本キャンプ場 (昔は競馬場、今はアウトドアライフを楽しむ場に)



戦後には草競馬場としても使用されていたが、現在では、アウトドアライフを楽しむ家族や、若いグループ、サークル活動の広場として町外、県外からも多くの人々が来町され使用している。夏には申し込みが殺到し、土・日は団体で満員となる。



キャンプを楽しむPTAの団体



トイレ



休憩所

●四国のみち

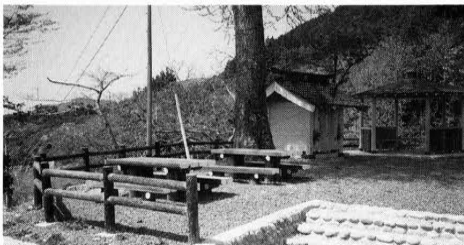
四国には古くから四国八十八ヶ所順拝の風習がある
そこで、現代社会でも、歩いて楽しいへんろ道をベー
スにした“四国のみち”を環境庁・愛媛県により、久万
町内に昭和57年4月に約19km整備された。



古岩屋周辺の川辺



昆虫採取を楽しむ子供達



高野休憩所



四国のみちオープン(昭和57年4月23日)



観光農園

久万町では、ふるさと村や古岩屋荘などの観光施設の整備に伴ない観光りんご園を中心とする、観光農園が畑野川地区を中心に整備されてきた。

いちご、とうもろこし、くり、なし、さつまいも、ぶどう、りんご等、久万高原の秋は味覚でいっぱいである。



ふるさと村りんご園オープン(昭和54年秋から)

久万のりんご園の普及には高知県土佐町の伊藤正土さんの指導によってスタートした。オープンにはトランペットの演奏で華をそえて下さった。(昭和51年～)



久万高原に花咲くりんごの花

りんご研究会(30人)栽培面積約10ha 40万個(昭和63年現在)



りんごの手入れ



りんご研究会も昭和58年から活動
観光りんご娘(昭和61年～)



とうきび狩り



いも掘り



りんご狩り

●ふるさとの森会員制度

直営町有林760haの約10%に当る78.01haを対象として、都市住民等から、1口30万円で会員を三次にわたり募集し、北は北海道から南は宮崎県にいたる全国27都道府県の会員と983口、830人の分収契約を締結した。

本年度も昨年につづき、ふるさとを持たない都会の人達の憩いと休養の場・第2のふるさととなるように年4回（5、8、10、12月）、季節の贈り物や事業を実施し、物心両面での結びつきをめざしている。



ふるさとの森現地説明会を開催
(昭和58年、59年、61年)



ふるさとの森会員 送り物発送風景

森の会員さんのいらっしゃる各地域に町長以下町の関係者が出向き交流懇談会

大阪地区（昭和61年5月25日）

関東地区（昭和61年10月26日）

中国地区（昭和62年5月31日）

高知地区（昭和63年1月10日）

徳島・香川地区（昭和63年5月22日）



ふるさとの森会員さんをお迎えし、りんご狩ツアーを毎年2回開催
(昭和61年～)



年間4回、会員の皆さんに、久万町の情報と、季節の香りをいっぱい詰めこんで発送

●都市と農村の交流事業

久万町では、観光交流事業促進のため、都市に出向き、郷土芸能の披露や、特産物の販売を行なっている。また都市の方々にお越しいたごき、農業体験や、ふるさと生活での物づくり体験を通して、農山村の良さを知っていただき、活力あるふるさとづくりに努めている。



ふるさと農園(昭和63年～)



「まちとむらの交流大会」東京 佐々木
(昭和60年、61年、62年)



生田高校(神奈川)修学旅行生受入(ふるさと村)



西日本自然休養村博「日本ふるさと物語」大阪
(昭和61年、62年、63年)



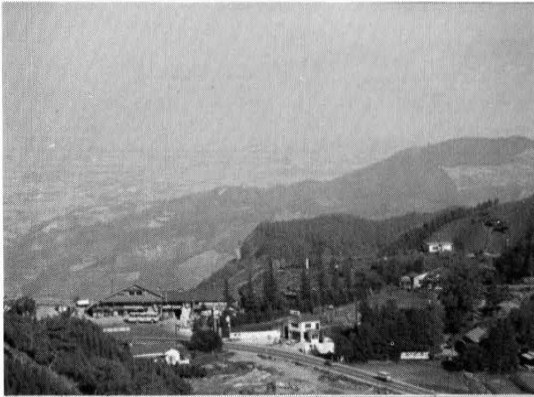
「ふるさとの森会員さんと交流」(昭和61年～)

民家で木工教室
高知市と久万町
の交流事業
(昭和60年～)



高知市のみなさんうどんづくり

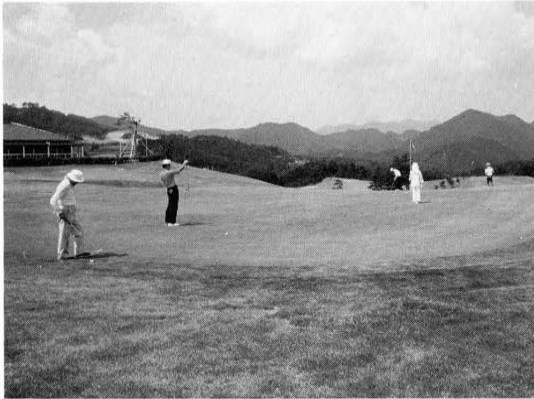
久万町の主な観光施設



ドライブイン(昭和40年代～)



笛ヶ滝 スキー場



ゴルフ場(愛媛ハイランド)



ゴルフ場(久万カントリー)

昭和49年～



民 宿



久万スキーランド(町有林にて)

昭和60年～

納涼まつり

(昭和44年からスタート 63年で第20回)

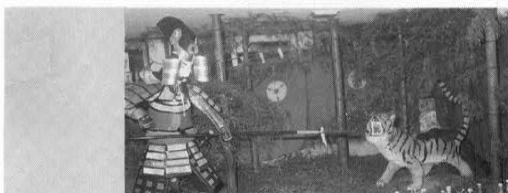


久万おどり 昭和48年からスタート



毎年盛大になる花火大会

●商店街の見せ物「つくりもの」





オープニングパレード(久万小笛鼓隊)



商店街を彩る七夕かざり(昭和48年)



名人のおどり



祭に華をそえる陸上自衛隊



ミュージックナイター



●久万山御用木まつり「300年ぶりに復活」 (昭和59年～)

松山城築城に際し、久万山村が城普請の御用材として調達された。その時に、取り行なわれた儀式が久万山御用木まつりとなって昭和59年に復活した。



久万山御用木まつり(昭和59年～)



ちびっこ丸太もわっしょい

久万山御用木まつり 優勝 一番柱

- 昭和59年 野尻組
- 昭和60年 直瀬い組
- 昭和61年 直瀬い組
- 昭和62年 畑野川
- 昭和63年 二名は組

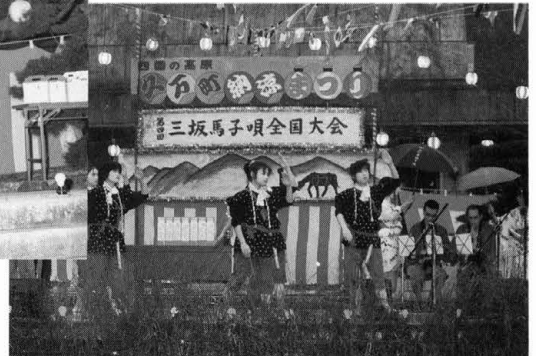


●三坂馬子唄全国大会 (昭和60年～)



久万山の馬子が松山の城下まで年貢、生活物資を運んだ時に唄われた馬子唄。

昭和60年から全国大会として納涼まつりに登場。



馬子唄のおどりもつくられる

●新しくオリジナルな『久万おどり』（昭和61年～）



小丸太鳴らして『よいとこよい』



優勝旗授与(久万町婦人連)



久万おどり競演大会



おどりを盛り立てる演奏



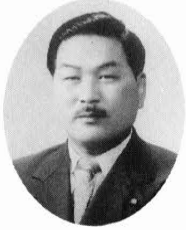
おどりの研究に高知のよさこい踊り参加



仮装大賞優勝?

久万町商工会

1. 歴代会長



初代会長
嶋村 忠義



二代目会長
水谷 清一



三代目会長
篠崎 隆美

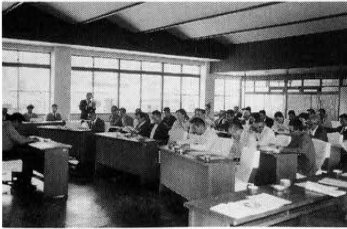


四代目会長
高岡 晋作



五代目会長
佐伯 正俊

2. 総会及び役員会



商工会総会

商工会は昭和36年2月
商工会法の制定に伴い、
任意団体としての久万商
工会を発展的に解散し、
会員数 284名で設立され
た。



優良従業員表彰式



役員研修

3. 駐車場の整備

マイカー時代に対応し
町内商店街に3ヶ所の公
営駐車場を設け、買物客
に利便を提供、その管理
運営を行なう。



S.50年 第三駐車場



S.63. 第三駐車場

4. 商店街活動



七夕笹飾り

昭和36年より商工会の主催で開催されていた花火大会は昭和44年より久万町納涼祭として久万高原の夏の風物詩として定着し、町内外から多くの見物客でにぎわうようになった。

土曜夜市もその頃から盛んになり、町内の各所に夜店組合が設立された。



金魚すくい



町立病院売店
(商工協同組合)



S.59. びっくり市

商店街の街路灯は町条例に基き、昭和51年第一期工事として76基が設置された。



S.51. 街路灯新設



S.59. 大型店出店説明会



S.61. 町内の駐車場4ヶ所に無料の
レンタサイクル20台を設置

5. 青年部活動

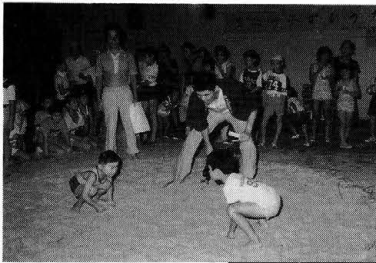


S.53. 先進地研修

商工会青年部は次世代の久万町商工業の担い手である若人の組織として昭和42年7月に設立された。

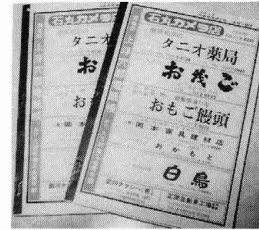


S.52. 婦人部との合同による奉仕活動



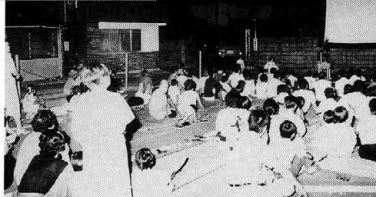
すもう大会

土曜夜市



S.54. より2年に1度のペースで発行されている上浮穴郡電話帳

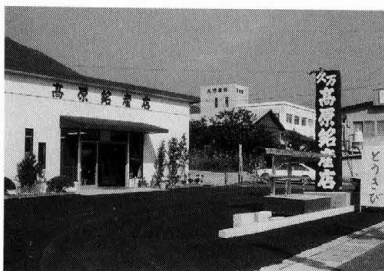
こども広場



マンガ映画大会



チャリティー せり市



S.55. 高原銘産店

若手経営者5人の共同出資による上浮穴郡内の特産品・土産品を販売する高原銘産店

6. 婦人部活動



参加者も多い簿記講座

商工会婦人部は昭和48年12月設立され、中小企業長官賞を受賞するなど、その活動は活発で県外からの研修も多い。



山口県 由宇町からの視察



身も心もリフレッシュ 3B体操



土曜夜市 たこ焼き



先進地研修



S.55. 久万町商店街の共通のお買物袋を製作



S.63. 花いっぱい運動



いもたきの夕べ